

たり、江差町民の企圖にかゝるものなり

●後志國瀨棚市街 第二十六圖

利別川の北一里に在り、北は梅花都に隣り、東南に丘陵を受く、漁業頗る盛なり、戸數二百余あり、東南丘陵を隔て、瀨棚新開墾地に連る市街のある處を合津町と稱し、旅亭三四海岸に枕して建つ

●三本杉岩 第二十七圖

瀨棚海口は危礁碁峙して中に三本杉岩あり、遠望あだをも杉樹の喬聳するがごとし、高さ六丈方言にイカイといふ

●後志久遠の海岸 第二十八圖

一帯の地漁業の利あるを以て漁家相點綴し、岬角巍々波浪荒しといへども、曲浦繚繞し、久遠浦の如く稍舟を泊するに便なり、釣掛帆越、稻穂小歌の調岬皆奇石を以て成り、奇岩を以て飾り、殊に帆越稻穂は相對峙して其間海上五里、岬角の眺望奥尻の諸山を一眸

に集めて、紺碧油繪に似たり

●壽都港 第二十九圖

壽都灣に屹める名邑にして戸數千七十一、人口六千二百二十三、後ろに山を負ひ市街丘陵に連る、港口北に向ひ風波稍高しと雖も亦西部の要港たり、海岸には旅店回漕店海産物雜貨店等商家隣次し郡役所裁判所警察署學校病院測候所本願寺別院其他諸會社銀行等あり、函館を去ること陸路四十一里小樽を去ること二十九里十町福山まで六十八里二十町、此間漁船の往復絶ゆることなく、遠洋航海の大漁船又寄港をなす、沿岸漁利多く附近の開墾又生産に伴ひ、人口日を逐ふて繁殖せり、一年間出入船舶殆ど千艘に上る

●歌棄天狗嶽眺望 第三十圖

遠く歌棄郡天狗嶽の淡靄を望み、近く岩崎沖鯨梓船の連るを見る、まことに奇觀なり、此圖は壽都より望みたるものなり



磯谷海岸雷電山を望む 第三十一圖

雷電嶺は西海岸屈指の嶺にして其岬角は即雷電岬なり、高さ三千尺岩内の郡界に峙つ往昔行人は岩角を攀ち木株に縋みて上りしが近時開墾せられて馬脚を通ずるに至れり、山中温泉あり泉質礬氣を含み温度百二十度あり、近傍に熊野社あり速玉乃男伊邪那美命を祀る處なり、岬頭は千仞の大岩直ちに海中より起りて兀立し、波濤岩角を噛み、峻険にして近くべからず、苔蘚岩に固結して岩狀譎詭を極め、岩下深淵魔神の巢窟かど怪しまる、壽都より岩内に至る船舶の多くは岬端を距る概ね三十町の處にて之れを送迎するを得べし、傳へいふ、辨慶が蝦夷人に來年歸るを約せし地なりと、此圖は壽都より望みたるものなり

岩内市街 第三十二圖

後、此圖は壽都より望みたるものなり  
岩内市街 第三十二圖  
檜比し戸數二千五百九十、人口一萬五千を有す、郡役所警察署學校郵便電信局等あり、港内水深く商船常に輻湊し小樽函館間航海の漁船は常に此處に寄港す、されば市街かのづから繁盛なるのみならず各地方より商家の入込多く現狀を以ては到底これを収容し能はざるほどの發達なり、道廳に於ても港湾の修築を以て急務となし着々調査進行中なりと云へり、殊に函樽鐵道は此地を經由せんとて早晩踏査する筈なれば今後の岩内港はまことに有望なり、現に内地へ輸出する物産の高一ヶ年七百萬圓に上る岩内石炭山は市街を距る北方三里茅沼川の上流に在り河口より炭礦に至るまで三十二町の鐵路を布きて盛に採掘せり

岩内雷電下鳴神瀧 第三十三圖

岩内港を距る一里餘雷電山麓の東方に在り、最近の發見に係るものにして瀧は敷島内村トウベツ河の右流ニベツナイ川の上流にし



て河を上ること十町許、其奇真に天工の絶美を極むと云ふべし  
巖岨岨として臥龍の如きものあり、嘯虎の如きものあり、崖頭幾  
多の松檜蟠蟠して雲を呼び風を起し、若し一步を誤れば千仞の奈  
落に萬事休すべく、さなきだに奔流斷崖の間にかゝり、直ちに海  
におつること十數丈轟々として谷も割れんずばかりなり、松枝檜  
梢爲めにゆるぎ奇石怪岩ために震ふ、其凄味又云ふべからず、洋  
々たる碧波常に高く、順風に孕むの帆船、黒煙を漲らすの漁船、  
水天漂渺の間に見え、完かも天の吊船のごとし、近くは白聖紅樓  
街衢の井然たる、堂宇の巍然として聳ゆるなど、岩内港の全景を  
一眸に集めて自ら仙境に入るの感あり沿道の遠望は夙に天下に誇  
るに足る、歩を谷底に移せば奇石怪石累々として散點するの處、  
溪流環滾絶へず奇石の間をくゞり怪岩の上に表はれ、或は緩に或  
は急に或は迂し或は直し、其緩にして迂するものは潭となり、其

急にして直するものは湍となり、一仰一瞰石火の間に此奇と此險  
とを寫し出して神氣おのづから冷縮するをおぼゆ、其近傍に石橋  
あり自然に瀧壺の上にかゝる、壺の周圍二十三間深さ一丈二尺の  
り、古松老檜蔚々として天日を蔽ひ四時の草木岸を綴飾して愛す  
べきものあり、殊に奔流急下して白波濯り水沫奔湍して壺中の渦  
波落葉を沈めて其勢のすさまじき只足戦さ身震ふをおぼゆるのみ  
この天工奇景の石橋を隔て、又小瀑あり、奇觀云ふべからず、鳴  
神瀧の君の因て出づるまことに中れりと云ふべきなり

胆振國羊蹄山 一名蝦夷富士 第三十四圖

山容富士に肖たるを以て蝦夷富士の稱あり、高さ七千二百余尺、  
この山は休火山にして火口の徑凡そ八町に及び、山趾遠く延て洞  
爺の湖畔に至る、其東北西の三方は尼別川の氷圍繞して岳麓を浸  
す、半腹に至るまでは樅檜其他の雜樹茂生すといへども、其以上



は漸次秃として樹木を滅じ唯笹原を見るのみ、更らに進むて絶頂に至れば愈々峻峻にして凄味骨に徹するも亦四方瞰下の眺望は口にすべからざるものあり筆にすべからざるものあり、南に昆布岳を脚下に眺めて西北に岩内磯谷古平の諸山を見、東北は支笏札幌前繪庭の諸山より、石狩下流一帯の平野を際て、遙かに雄冬の峯を認め、南福山江差の諸山より噴火灣を隔て、遠く函館の諸山を雲煙模糊の間に指呼し湖中の小島は宛として盤中の盆景の如く有珠室蘭の岬灣實に呼應の裡に在り、若し夫れ洞爺湖畔仰げば三面皆山にして、只北の一方僅に開けたるのみ、此處より羊蹄山の頂玲瓏として表はる湖面は坦々として澄碧一大鏡を展べたるが如くして、赤壁斷崖の有珠岳を沈め湖島の摺鉢山其間に在りて峰巒其外を圍繞し、黄茅綠草奇石怪岩の間に點綴し、風色雄大まことに天工の美を竭くすといふべし

●膽振國千歲瀧 第三十五圖

千歲郡に在る有名なる瀑布にして樹林岩石の間銀を吐き、水鳴り谷響き其凄味殆ど口に絶す、千歲川の北岸に千歲村あり、こゝより札幌に至るものは丸木舟によりて之れを泝るといふ

●膽振國西紋籠市街 第三十六圖

有珠灣の東南長流川の兩岸より以南二里余の海岸地を總稱して紋籠村とは以西に在り、西紋籠は其下流に在り、土地廣く頗る膏腴にして有名なる伊達氏の農場は其附近海岸二三里の間に涉りて熟圃相連る大小豆菜種橘果は此地の特産なり戸數七百六十四、人口四千二百七十七あり

●室蘭港海岸之景 第三十七圖

室蘭港は本道南部の要港にして且つ海軍鎮守府の豫定地なり、繪鞆半島の腰部にして室蘭灣に臨み、市街丘陵に由て町を區別す戸



數千四百四十二、人口四千百十九あり、此地舊名をトカリムイと呼びたりしが、明治五年新港を此に開き今の名に改む、驛路は四方八方に達し、灣内水深く、北に輪西山を繞らして四時風波の虞なく函館青森との間には定期船の往復ありて海上陸上共に殷富を極め、濱町札幌通り、常磐町は實にこれが冠たり、旅人宿料理店遊廓等建築の宏壯を以て聞ゆ、旅舎は旅館命旅館名あり室蘭埠頭は明治五年の起工にして十一年改築し長二十五間巾六尺岬上燈台あり、灣口に大黒島あり全島悉く岩石を以て成り、左右に月見時雨の兩岬あり、岬間礁石多く舟行甚だ危険なり、半島の南端海中に鯨岩あり、フンベシユマと稱する島嶼なれども其色黝黒にして形鯨のごときを以てこの名あり、後人傳へいふ、往昔饑饉ありしと下場所の土人繪鞆に來り食を求めんとせしに偶々海上此岩あるを見て鯨となし、薪水を用意して流れ寄るを待つこと數日にして

終に餓死するに至れりと

室蘭港の停車場 第三十八圖

室蘭港は炭礦鐵道の起點にして貨物の出入旅客の來往頗る多し、此圖は同停車場を示したるものなり、室蘭港の富源は實に之れに由て肥むつゝあるなり

膽振國登別之溫泉場 第三十九圖

登別川の支流藥川の上り、登別停車場を距る二里の處に在る硫黄泉にして、浴場の東北に小湖あり周圍四町其一隅に噴泉ありて熱泉を噴騰し、時としては高さ五十尺に達す、頗る壯觀なり、又噴泉を距る三丁餘湖畔處により熱泉を湧出し湖水これがために五六十度の温度を保つに至る浴舎一棟崖にかゝり、崖下は溪流にして水質瑩徹石皆光澤を帶ぶ、幌岳其左方に聳え溪流に沿ふて下ると七八町にして其水瀑となり更らに流れて登別川に合す、溫泉場



より上ること十四町、藥川の水源盡くる所に一泓の池あり水極めて清冷なり、温泉場に在る旅館は丸一旅館無一庵岡本旅館瀧本旅館なり

石狩國奈井江炭山 第四十圖

石狩國は有名なる諸炭山に富み、夕張炭山幌内炭山幾春別炭山空知炭山の如きこれなり、奈井江炭山は空知郡に在り最近の發見に係るものなり

石狩國空知太橋 第四十一圖

空知太は石狩空知兩川の會する處に位し後に丘を負ひ前は新十津川の農村に連り、北に雨龍の原野南に石狩の平野あり、大鹽上川兩街道の要衝に當り鐵道の便あり、空知太橋は本道に於ける最長の鐵橋にして長さ百余間あり

石狩幌内炭山 第四十二圖

空知郡幌内村に在り、明治五年札幌の人早川長十郎始めて煤炭を發見し、十二年に至り大抗道を開鑿し、礦夫を募集し開掘に着手し山腹を截り、同十二月三十日坑門成る、礦區坪數は百三十九萬七千六百二十坪、炭層は四層に分れ厚さ三尺乃至六尺あり、炭礦鐵道株式會社の四炭山中最も古るきものにして産出炭は瀛罐用、鍛冶用に適す、札幌より幌内まで三十四哩五二

(附)

夕張炭山 夕張郡登川村に在り開坑は明治二十三年七月にして確區坪數は三百八十二萬八千五百五十一坪、炭層は上下二層に分れ厚さ四尺乃至二十三尺あり、炭礦鐵道會社中最も大なる處にして産出炭は瀛罐用、鍛冶用、瓦斯及骸炭製造用に適す、札幌より夕張まで七十五哩七五  
幾春別炭山 空知郡幾春別村に在り開坑は明治十八年六月にして



礦區坪數は百六十八萬千八百坪、炭層は四層に分れ厚さ三尺乃至七尺あり、産出炭の用途は幌内炭と同じ、札幌より幾春別まで三十六哩三七

空知炭山 空知郡歌志内村に在り開坑は明治二十三年四月にして礦區坪數は三百五十七萬三千五十四坪、炭層は十層に分れ厚さ三尺乃至九尺あり、産出炭の用途は夕張炭と同じ、札幌より歌志内

まで五十六哩一〇

石狩國幌向停車場 第四十三圖

炭礦鐵道江別岩見澤兩驛の間に在り

石狩國神威古潭之墜道 第四十四圖

神威古潭は本道名勝の一にして旭川驛を距る西四里、石狩川の兩岸相迫りて壁立千仞巉岩屏障をなし、十數年前に在ては雲梯霞棧深く閉ざし險崖深潭此天險を踏破するは非常の困難なりしが、今

や官設鐵道は此處を通じ車道開けたれば坐ながらにして此天險を通過し奇勝を搜り得べきに至れり、墜道は岩石を掘鑿して成り岩は自然にこの天蓋を容れり、此圖即ちこれなり

石狩國神威古潭第四十五圖

石狩日記の一端を抄して當時の眞景を描出せん「神威、シキウシハといふに着す此處土人等皆荷物を上げ乗り來りし船をつなぎおく處なり故に此名あり、又向岸に岩窟あり其奥を知るものなし、雪中には皆茲に入つてやせりすとかや、是より兩岸峨々聳え山尖り樹老ひ、怪岩奇石にして苔滑かなり、岩間には種々の異草多く見へ、水怒り谷響き、如何にも龍蛇をも潜ましむるが如く怪まる、なれを別に異なる物も住まざれども斯くの如く數十日の水上に潜龍沙魚の居ること奇といふべし、土人括槍を掲げて岩上に暫時停立せしが四尺計の潜龍沙魚を一尾と三尺斗のナライ（和名イワナ



イトウ)を得来る、又一人は赤箭天麻 五六本取り来る、これは  
土人の薩摩芋なりとて焼いて我等にすゝめ味噌汁にもなし呉れぬ、  
夜に入り跡舟も来りしが故、石上に一罎を傾け岩根を枕として眠  
る又一奇なり、十八日早晨蓬を出れば土人石の凹みに水を入れて  
嗽がしむ、余は一人を伴ひて断岩をよち巨石を刎ね越し一々名區  
を見物し行くにホロレブシといふ處、兩岸川中へ聳へたる處に  
一つの瀧あり、五段に成りて落つるなり、ホロシエコといふは其  
上水中に大なる烏帽子の如き岩突出す、ホソレブシは前に同じ  
く南岸蹙まる所の瀧なり、奇石水中に挺出して其間獅子飛ともい  
ふべき所にして土人等が常に其下の渦巻ける深潭の上より括槍を  
遣ふ所なりとぞ、傍らに鬼の足跡とて凡そ三圍り斗りの井の如き  
穴三ツあり、深泉一丈余又纒かに五六間を過ぎてエモンケンとい  
ふは山靈の鬼を斬らんとして此處に刃先を切込みし處なりといふ、

サヌシペリといふは兩岸愈迫り其上水渦を巻き、テツソオコナイ  
とは南岸に一條の飛泉あり、水底に柵を結びし如く一すじの石垣  
のやうなるものあり、過ぎてハルシナイといふに出る處にて少し  
遅流になりて丸木舟も五六艘備へあり、是れより又船にて上るな  
り(中畧)  
水底は磊々たる大石苔滑かにして厚く水急なり、崖樹枝を接し葉  
密にして根を露はし、掌立の峻崖には白糸を亂せしが如く或は布  
を曝せるも怪まるゝ飛泉數條の處をすぎ、左の方にイツンヤ(鬼  
首)といふ處に至る、數丈の巨岩の水中に聳立す、土人らはこゝに  
て木幣を削りて途中の安を祈る、アソイナイイラとは突出した  
る大岩に流水碎けて破濤を逆立す、カモイチトバナとは七八丈の  
立岩恰も鬼の体の如きもの峙立す、此邊に至る愈々急流なり、二  
人は樹の根岩角に上りて繩もて曳き三人は水棹にて突き張り余は



船を汲みすて辛苦萬苦して上るに彈指の油断をするや數間を流され其危きこと數度に及べり、レイコロブイといふも同じき急瀬なり、トレフサラチフといふは彼の鬼神の携へ居たる蕎麥葉見母和名鹿がくれ百合といふを入れし蘿の化石なりとてすべて此鬼神には種々の縁故もありしが、土人等他に語るを禁せりとかや、過てチ、コツナイ、イヌンナイ等數丈の瀧なり、コタンベツフグト此邊へ来るや少し遅流になりて先づ安心をなしぬ、過てチカブニといふ山の麓に着し宿さんとするに蚊多くして寝がたき故に夜中俄かに舟を出し流水につなきて一夜を明かしぬ、其木に又一絶を記す

神威古潭石狩川沿岸之景

前兩圖の説明にて既に盡くせば今又云はず、宜しく此圖と相對照す

紫船雲揚畔 霏微暮靄浮 蓬窓苦三蚊齒 半夜泛中流

上川郡旭川近文第四十七圖

東洋第一とも稱すべき廣大なる兵營を有し、東西二十二町南北二十五町にして面積三百萬坪に近く其設備に於て構造に於て實に驚くに堪えたり、即ち第七師團司令部は上川に在りて歩兵第二十六、第二十七、第二十八聯隊及砲工騎輜重兵等其官舎のみにても四百六十戸に上り、酒保及附近村落を合せれば既に兵營附近に於てのみ戸數三千に及べり、全地は兵營造營前にありては空漠たる一大廣野に過ぎざりしが近時に至り頗に殷富を極め札幌より旭川を通じ此地に出入する人馬百貸大に輻湊しまことに將來有望なりとす、殊に上川郡を貫通する官設鐵道中天鹽線十勝線は旭川を其交又點として連絡を通ずるに於てをや、此圖は旭川市街の一端師團道路の内近文市街を寫したるものなり



旭川第七師團第二十七聯隊之兵營第四十八圖

五十四

旭川第七師團第二十七聯隊之兵營第四十八圖  
上川平野の中央に在り、街衢廣濶にして四通八達の要衝に當り旭川町開設來僅に八年に過ぎざるに既に戸數四千戸に達せんとしつゝあり、北約二里にして永山市街あり、明治二十二年上川郡の中央に於て他日離宮を設置すべきことを宣達せらる、其豫定地はチユプベツ美瑛兩川に夾まれたる小丘にして、高さ十餘丈東北一絶壁にしてチユプベツ河其前を流れ水最も清淨なり、西南は傾斜緩慢にして眺望殊に宜し、此圖は第二十七聯隊の兵營を示したるものなり、市街中最も繁盛なる街を一條二條三條通りとす

旭川森製軸所第四十九圖

旭川森製軸所第四十九圖  
札幌區五條通り九丁目に在り、明治三十一年二月の設置にかゝり、廣袤四千八百六十坪、機械室及干燥室等建築總坪一千二百坪あり、機液機鐘は公稱十五馬力、製軸機械は獨乙式にして一ヶ年の製品

一千五百萬把、此生産額十五萬圓余にして尙ほ小箱部は一ヶ年間製品三億七千萬箱、此價額八萬五千圓なり、軸木原料は白楊樹を以てし小箱は樺松を以てす、機械の完全建築の大なること實に本道に冠たり

十勝線美瑛之堀割第五十圖

十勝線美瑛之堀割第五十圖  
石狩國上川郡に在り、鐵道は官線の空知より來るもの旭川驛に至り岐れて南北二線となり一は永山を経て天鹽に入り、一は美瑛原野を通じて十勝に至る、此間に美瑛の堀割あり

石狩川渡船場第五十一圖

石狩川渡船場第五十一圖  
石狩川は至る處に渡船場の設あれども一體に急流なれば迅速に事を便すること能はず、即ち渡船の方法は先づ流れに逆つて之れを沂り適當なる場所より此急流に沿ふて下るものにして俗に云ふ處の落しなり、平生の心掛けよりして大概到着地點に落ち來るやう

五十五



巧に流れに浜るといふ、河口より上流二十余里の間は小蒸氣船の往復あり、近時は減水に乗じ河底に埋没せる大木を爆裂弾にて盛んに破碎しつゝあれば、猶ほ此上流神威古潭にまで達することを得るは遠きにあらざるべし

●石狩國樺戸第五十二圖

後に丘陵を負ひ前は石狩川に臨み、戸數千四百四十二、人口三千百五十五を有し、役場郵便電信局學校集治監等あり驛路はこゝより新十津川兩龍等の新開地を貫通して兩龍郡の深川に至り、一線は東に折れて峯延を經、市來知に至る、又西に折れたるものは當別を經て石狩に通ず、此地一帶坦夷平曠沃野少からず

●天鹽國增毛港第五十三圖

小樽以北西海岸に於ける著名の海區にして增毛灣に臨み、戸數二千四百三十三、人口一万千六百八十あり、船舶の出入夥しくして

附近沿岸の水産物は大抵此港に集り來り商業甚だ盛なり、港頭に燈臺あり、此地沿海六里の間は古來著名の漁區にして增毛の夷名魚漁多き場所の義にして漁季節間出稼人の群來すること夥しく晩春一二ヶ月の間は沿岸數里の地殆ど人橋を架けたる如き景況を呈し其内宿屋飲食店料理店遊廓等はなかく繁昌せり、札幌を距ること北二十九里

●天鹽國增毛灣第五十四圖

灣の廣さ十二町、深さ二尋より四尋に至る、灣口北に向きて北方の風浪を遮るものなきを以て、秋末より冬季の間船舶碇繫に便ならざるも、晩春後は概ね平穩なり

●根室市街第五十五圖

本道東端の一都會にして根室半島高原の北側に位し、戸數千九百五十六、人口七千八百三十一あり、街衢概ね坂をなし家屋小丘に



よりて連擔し、郡役所警察署裁判所郵便電信局憲兵屯所測候所郵船會社支店其他學校病院等各所に散在し市街殷富なり、就中花咲町梅ヶ枝町本町は最も樞要の場處にして大賈豪商軒を並べり、海岸は岩石多く北東に小岬斗出し北に辨天島あり以て港をなす、港内廣からずといへども波濤極めて靜穩にして船舶の碇泊に宜しく、而して函館港と漁船の往復繁く殊に千島諸島への要衝に當り、貨物の集散頗る忙はしく年を逐ふて繁盛に向ひつゝあり、官設鐵道竣工の曉に至れば市街に更らに大革進を及ぼすべきなり、根室山法眼寺は曹洞宗高龍寺末僧梵光の開基にして明治十三年の創立境域四百八十七坪餘あり、而して今當港の重なる輸出品を擧ぐれば左の如し

輸出品

輸出先

東京

四日市

名古屋

鹽鮭

東京

函館

萩ノ濱

青森

昆布

函館

神戸

兵庫

函館

干鱈

東京

兵庫

大阪

函館

海扇

横濱

青森

鑑詰類

函館

根室市街の西、四里にして風蓮湖あり、根室半島の咽喉を占め長さ六里に亘る、海岸湖にして湖畔一帶卑濕なる芦原にして所々に林磬をなす、風景曠漠たり

●根室灣内氷上コマイ釣第五十六圖

冬季根室に至るの人は灣内氷の上に數十となく跪坐する人あるを見ん、這はコマイ釣とて此地方にて最もおもしろき又最も愉快なる娛樂の一と數へられ、如何なる素人にも容易く行はれ得る釣をなしつゝあるなり、一體根室灣の口は北に面し居れば北東の風



を受くるには都合宜しく而して此風は千島海流を導きて之れに伴ふ流氷は幾片となく此湾内に押し寄せ來りて果ては氷を以て全く湾内を閉鎖するに至る、豫ねてより此内に瀰ち居るコマイはこれがため餌を求むること出來ず、解氷するまでは引續き此憫れなる有様なるより、釣手は此機に乗じて氷の上に坐を設け且つ帽子大の穴を穿ちて其口より綸針のみにて餌を付けずを垂るれば魚は餌と間違へ丁度駄に走る鯉のごとくこれを得んとて争ひ集り來るを此餌なき針にて引つけ捕る釣りものなれば、これほど容易く又これほど愉快なるものはなし、殊に暖國に住する人の耳に珍らしく聞ゆること、釣手が暖を取るために氷の上にて火を焚くことなり、素より氷は人を載すほどの厚さなれば火のために融けたりとて只其周圍が少しく凹む位のことにて遠國よりわざわざこの奇遊を試みんがため出掛けるものが頗る多くあるといふ、魚の大さは

●厚岸港之市街第五十七圖

普通七八寸より一尺まで位なり

厚岸湾と厚岸沼との間に挟まれたる地にして東海岸の要港たり、沿岸水産物集散の好場所をなし兼て汽船の便あり、役場警察分署郵便電信局學校病院等あり、戸數九百五十九、人口三千百五十を有す、灣の西にシレバ岬あり東にトコタン岬あり、兩岬深く凹入して匏瓜の如く、灣口に大黒島あり昆布の採収をなす、仙鳳趾は灣の西岸に在り、港内神社三、辨天社は蠣島に在り市村島姫を祀れり、灣の東岸に盤螺山あり、山嶺平區にして高さ百尺海岸に時ち半腹より磴道を設け以て登るに便す、西北一帶平丘を隔て、遙かに阿寒の三尖峯を望み水陸の觀望まことに絶勝なり

●厚岸蠣島之景第五十八圖

厚岸沼は鹹湖にして周回凡そ七里、一面牡蠣を生じ中に數ヶの蠣



島あり、干潮の時水面に表はるゝものは五千有余に及び、湖の二分の一面積にことごとく蠣を以て蔽はる、まことに奇観なり

六十二

●厚岸國泰寺第五十九圖

山號を景運山といふ、臨濟宗にして本尊は釋迦牟尼佛、一尺九寸の坐像なり、享和二年の建立にして境域千四百六十五坪本道有數の名刹にして幕府の時年々米百苞及び十二人口俸金四十八兩を給したり、境内に鐘樓觀音堂あり

●釧路市街第六十圖

特別輸出港にして釧路川の河口に在り、戸數千百九十、人口五千二百を有す、此地往昔久摺會所のありし地にして附近漁場多きが上に國內著名の硫黄山ありて、標茶と釧路川とを以て交通の連絡をなす、標茶には所謂標茶鐵道あり硫黄運搬のために布設したるものなり、又港内風波の患なければ船舶の碇泊甚だ便にして海上

●釧路製紙場第六十一圖

の交通大に開け根室函館間及び厚岸港と絶へず汽船の往復ありて市街繁盛を極め東海岸中根室に亞々の都會なり、街衢廣濶にして一條の大道東西に貫き真砂町洲崎町最も繁盛にして豪商軒を駢べ商業頗る活潑なり、ことに官線釧路鐵道は釧路白糖間既に開通せり

●釧路別保炭山第六十二圖

北海道に至る處諸炭山に富み其採掘非常の巨額に上ることは夙に世人の認むる處なり、別保炭山は別保村に在り最近の發見に係り

六十三



前途まことに多望なりといふ、此圖は同炭山を寫し出したるものなり、詳細は北海道概況礦業の記事に在り

釧路國標茶第六十三圖

斜里山道の要衝に當り、役場郵便電信局等完備し、跡佐登岳は有名なる硫黄山にして山麓より標茶に至るまで二十四哩の鐵道は主として採掘せる硫黄を運搬せんがために敷設したるものなり、標茶には安田硫黄山事務所あり、硫黄を製練し釧路川によりて之れを釧路港に輸せり、人口二千有余

釧路國雄亞寒山第六十四圖

有名なる噴火山にして山形圓錐狀をなし、傾斜頗る急、其山脈一は東に走りて北見の諸山に連り一は南方白糠郡に亘り高さ四千九百五十尺あり、山麓阿寒湖は一碧清澗を堪之四面の連山影濃かにして翠色幽妙なり、阿寒温泉は嶽の西麓一里湖の南岸にあり、硫

黄泉にして皮膚病に佳し、湖の西岸に當り一條の大瀑あり高三百間中五十間其壯觀なること那智に比すといふ、阿寒瀑布これなり、松浦氏阿寒登攀の一節に云ふ「念七日黍明土人壯候三生を獻ふて旅舎を發す、曉霧咫尺を辨せず、相呼應して進むこと百余歩、茂林陰森として衣を釣け、髪を胃す、石滑かにして路絶へ熊鹿の跡を踐む殘雪未だ融けず、秦荆蹶を刺し草鞋血を濺ぐ、露は衣を濕はし寒さは骨に沁む、手凍へ箒失す、但土人のみ健歩にして奔ること鹿のごとし、半時許にして岩小山に到る、又行くこと二里、路越の麓なり、異艸奇花芬々爛熳たり、最も延胡索、滴金露多し、土人採て而して之を食ふ、山は赭秃にして攀援して上ること二十丁許、下つて木幣多に至る、地僅に平坦、春草未だ萌えず、寒威知るべきなり、土人木幣を立て以て岳神を拜す、湖を望めば清澄可愛、小憩して又攀づれば滿目樺樹にして其大さ五六尺、庵靄地



六十六  
に満つ、又行くこと二十町許岳の東に出づ、雪滑かにし路險し  
く、五鬣の松ありて岩に縈ふ、皆大さ二三尺、異草夥し、土人は  
山神の崇りを畏れて敢て採らずといふ、日午にして山北に達す、  
寒威祛肌汗を流し益巉険なるを覺ゆ、二十町可りにして山西より  
山南に至る、雪推ふして而して膝をすぎ身の半を没す、山嶺に達  
すれば即ち日已に未なり、山嶺闊濶四顧巒峯多く兒孫の如くにし  
て皆脚下に俯伏す、三生頻りに指點して余に示す、蠻語に通せざ  
るを恨みぬ、元の范徳機、句有りいふ、「蠻語酬人翻自苦、好山  
不敢問何州」余始めて此語の妙を悟る、又遙かに大岳ありて天末  
に特立するものあり、恨むらくは土人の識らざりしを、想ふに是  
れ石狩岳なるべし、其間廣袤百里、山川相繆り、蜿蜒として奇を  
呈す、天暗く霧遮り俄頃にして混沌たり心神畏懼す、土人いふ是  
れ岳神の所爲なりと木幣を立て、之れを祈る、余亦國語を賦して

岳を拜す、餐飯して而して憩ふ、雲霧漸く霽れて寒氣凜冽歩を展  
ぶるに困難なり、則ち松枝を雪上にしき蹠踞して下る、未だ半時  
ならずして而して樺原に達す、日既に申をすぎ、湖濱の温泉に浴  
す、傍らに石あり蘆脊に似るこれ即ち其源なり、水は石礎を遶つ  
て流る、其熱銀を鎔かす、小流を合して湖に注ぐ、之れを鞠する  
に流黄の氣あり、倦疲漸く癒ゆ、壯候入生此に至つて余を待つ、  
木皮を以て家となし魚鹿を携へ以て余を饗す、風土殊異語言侏離、  
別天地にあるがごとし

日高國新冠御料牧場第六十五圖

地積三萬八千四町步にして新冠靜内兩郡に跨れり、土地高燥氣候  
温和にして軟草繁茂せる良牧場たるのみならず、其馬匹種類の純  
美なる果た組織の完全なるは他に比類を見ず

日高國沙流太村落第六十六圖



沙流郡に在る小村落なれども東街道の驛次に當り商船漁船の往復連りなり、此地アイヌ人の以て創業の地となす處にして往昔より第一の都會となし猶會長の居住地と稱す、此地のアイヌ人は品格高尚にして言語亦紊れず且つ勇敢なり、他の夷人皆之れを尊敬摺伏せりといふ

日高國沙流岩根農場第六十七圖

沙流川上流の沿岸は山高からず谷長くして豪腴の地多し、岩根農場の如きこれなり

十勝國土人部落第六十八圖

日高十勝は蝦夷創業の地なりしを以て古跡多く部落密集し土人戸口の滋き今尙は全道に冠たり、圖は十勝國に於ける土人の部落を示したるものなり

北見國稚内市街第六十九圖

ノツンヤ半島の東岸に在り、東北宗谷と相對し其距離六里に過ぎず、戸數千五百四十三、人口四千九百七十九あり、市街は半島の岸に沿ふて連り、丘陵後ろに横はり、宗谷の灣水碧瑠璃として岸を洗ふ、大道四條あり、此地小樽港を距る北方百四十七哩にして漁船の往復常に絶えず、冬季氷流港を封ずるときは西岸ルエラレに船を寄せ以て沿岸海産物集散の媒介となさしむ、商業頗る活潑にして官設鐵道の竣工と共に舊來の街況は更らに一層の繁榮を來すならん

北見國網走分監前之鐵橋第七十圖

網走港は網走河口に在り、能取岬其北方に斗出し街衢碁盤の目の如し、此地本道北岸に於ける要港にして上川より來る所の中央道路あり、又南釧路に通ずる道路あり、海路は知床岬を経て根室に通じ漁船の往復頻繁なり、網走分監は空知釧路の兩分監明治三十



四年九月三十日限り廢止せられたる結果開設せられたるものにして寫眞は其前の鐵橋を撮りたるものなり

●北見國枝幸砂金採掘場第七十一圖

枝幸は日本のクローダイクとして知られたる有名なる砂金生産地なり、元來北海道の砂金發見は今より十余年前に在りて渡島石狩等に於て採取に着手し次で北見の枝幸に於ける發見ありてより最近數年間に礦區數實に數十倍に達し、現在の採取箇所は七百五十一區其坪數四億六千八百二十九萬八千五百九十八坪河川の延長四千四百八里余に上り其產出額十三萬九百五十一匁に及び、今猶ほ砂金地續々發見せられ盛んに採取に着手せられつゝあり、同道に於ける砂金採掘場又多望なりといふべし、此圖は枝幸に於ける砂金採掘場の一を示したるものなり

●枝幸砂金洗練之景第七十二圖

北海道に於ける砂金採掘業の盛なることは既に説く處の如し、茲つてこれが採取方法は頗る進歩し、樋流し堀、チコ板濾し堀等にして所謂手堀は殆ど之れを見ざるに至れり、此圖は枝幸に於ける砂金洗練の景を示したるものなり

●枝幸廣谷砂金採掘事務所第七十三圖

砂金熱一時昂騰してより多數の鑛業主入り込み來りて盛んに鑛夫を役使しつゝあり、又其盛況の一斑を卜するに足る、寫眞は枝幸に於ける廣谷採掘事務所を撮りたる者也

●千島エトロフ之黑瀧第七十四圖

擇捉島は國後島の東北二十海里に在る一大島にして土民多くは西岸に居り捕魚を業とし、東北岸は一體に懸崖路を絶ち舟を寄する能はず、されば瀑布の自然に崖にかゝるもの多けれど概して險惡見るに堪ゆべからず、只落瀑急湍崖を割て銀を吐く黑瀧はその



勢猛烈にして却て看客の好奇心を促すに足る、黒瀧の名の因て出る、豈に偶意にあらんや。

鮫漁場納屋之景第七十五圖

本道至る處鮫の魚場に富み、採取又非常の多額に上る、鮫漁季節に至れば漁民の集來するもの夥しく、宛かも人橋を架けたるごとさ壯觀あり、此圖は鮫漁場に於ける納屋の一部を示したるものなり、以て其盛況の一斑を知るに足る

(注意)

土人に關する寫真圖解は次ぎに土人といふ一節を設けて特に詳細なる説明をなしあれば看官宜しく其節につき卷首の寫真と兩々相對して見るときは蓋一入の興味を覺ゆるなるべし

土人

稼穡の法を知らず、栽培の術を解せず、又牧畜の道を辨へず、常に

風雨に暴露して山に獵し、水に漁し、食は以て朝暮を期し、住は以て身を容る、限り悠々閑々、心に名利の微光なく、眼に一丁の文字なし、魯鈍にして光陰に干支あるを知らず、唯燕飲逸樂に耽りて、一生を醉世夢死の間に終るもの、之れを北海道の山間に散在するアイヌ種族の現況なりとす、アイヌは元來北海道の土人なり、往時其地未だ開けず、蝦夷と稱せられし頃は、北海道に住みわたりたるや明けし、されども劣等人間の優等人間に壓倒せらるゝは自然の天則にして、此哀れむべきアイヌ人種は實際今日其厄境に立ち、内地人の入り込み來るに伴ひ、彼等は跡を山間にをさめ、大に其數を減じ、今日にては二萬人に充たずといふ、若し自然に放任して之れに保護を與ふることなくんば此人種の絶滅恐らくば遠きにあらざるべし、北海道土人保護法はこのために制定せられたるものなり

衣服

土人の被服は概ねアツシを以てこれを製す、其長さ腰に



至り單衣にして窄袖なり、左袷にして居常帶を束ねず、又十徳と稱し、鱗織を以て製し或は瀟州古衣を用ふるものあり、所謂蝦夷錦是れなり、アツシは楡皮を以て織りたるものにして、草花様の形を刺鏤して之れを飾り、皆婦人の職とせり、蝦夷錦の外にシヤランベ、ナミツツあり、此三種は大禮及び祭祀の時にのみこれを用ゐ、婦人は何時たりともこれを用ゆることを得ず、足には脚絆の如きホソといふものを着け、冬に至れば男女とも鹿熊の皮を以て衣履となし、ケリを穿つも平日は徒跣にて雨天にも笠を用ゆることなし、其出るや必ず弓矢を携へ、槍を持ち、背に長銃を負ひ、腰に小刀を佩ふ、男子は概して髪を被り、鬚髯を美にし、目深く、眉聯り、額上を剃刷し、耳に銀環を貫き、満身多毛なり、女子も亦髪を被り、白布の味類をなし、シロキとて鏡様のものを胸間にかけて、鏡邊彩條を穿ち、貫くに青玉、金銀、環、銅錢等を以てし裝飾となせり

飲食 土人の常食は魚貝鳥獸の肉にして、多くは生食し、煮て食ふものは甚だ稀なり、食事は大抵一日二回にて一定の時なく、飽けば終日食はず、飢ゆれば深夜といへども之れを食す、其飢に堪ゆることは到底内地人の及ぶ所にあらざるなり、土人の最も嗜好するものは酒にして、之れを酌む禮あり、杯上箸を架して薦めば受くるもの即其箸を以て酒を神に祭り、然る後髭を上げ左手に杯を持ちて飲み、半ばにして次者に勸む、次者辭すれば則ち酌して更に酌み以て進む、其酒を酌むに七分を以て度となし、満酌を卑しむ、烟草も亦最好む所にして、盡くれば烟膏を取りて草葉に塗り、晒乾して之れを喫すると云ふ

家屋 丸木を以て之れを構へ、材を構ふるに釘を用ゐず、木皮を以てこれに結ぶ、屋根は茅蘆樹皮等を以て之れを葺き、草を編みて四壁となし、大小一ならされども其大なるものさへ長さ五六間巾二



三間に過ぎざれば、家族多きものは幾棟もなく建築せざるを得ず、家屋は凡べて東に面し、家内障屏なく、中央に大なる爐を設け、一方を來客の坐に充て、主人といへども妄りに之れを侵すことなし、**器具** 日用の什器は盃箸、唐櫃箱、桶銅、椀茶碗、柄杓等にして多くは内地人と交易して得る所なり、酒器は多く髹塗、金紋のものを用品最も巴紋を尙ふ、煙管は石又は木製のものを用品しが、近時は金屬製のものを用ふるに至れり、マキリとて男女共に用ゆる小刀あり、これにて竹木を切り、彫刻をなし、又鳥獸を料理するに用ゆる茅を以て莖となし、キナを織りて席とし其上に箕坐す、寢床には獸皮を敷けり

**性質** 純良にして未開人種の悍猛なるに似ず、親子、夫妻、兄弟の間、慈愛孝悌情に深くして、五倫の道に厚く、殊に内地人に對しては從順を旨とし、只管其歡心を買はんとするもの、如し、土人は一

見魯鈍にして元氣なきかの如く見ゆれども、天より得たる魯鈍にあらず、現に土人の子弟にして小學校に教育を受くるものを見るに能く發達進歩せり、又土人の猛獸と格闘し之れを生擒する等の如き怪力は實に驚くべきものあり、彼等は正直にして其尊敬する所は富にあらずして品行に在り、故に男女の區別まことに嚴肅にして、殊に婦人の如き其肌膚を露はすを耻するを以て、水を渉るの時といへども當て衣を褰げず、其嬰兒に哺乳する時も猶は蔽ふに布を以てす、年若き女子などの偶内地人を見るときは如何にも耻らしく顔をそむけて袖にて口を掩はんとする如き風情のしほらしさを見ても畧は其一斑を知ることを得べし、女子の平生務むる所は薪を採り、アツシを織り、禽獸を養ふにあれども、出で、夫に隨ひ、漁獵の一部を幫くる時などは内地男子も力遠く及ばざるものあり

**婚姻** 姻族の親なるものより娶るときは、父母豫め幼少の時に



約し、女の家に遣るに刀を以てす、年頃に至れば男子婦の家に住て  
婚し、暫らく留り遂に別居して生をなす、他族を娶るものは先づ媒  
人夜半に婦を伴ひて夫の家に至れば、其家人は故らに知らざる真似  
して燈を暗くし、爐火を消す、媒人閑話畢りて婦を婿の側に遣りて  
歸る、婦起て燈を挑げ、家人始めて相見、夫妻の間甚親善にして、  
妻は夫の命に服し夫を養ふを以て譽れとす、土人は又善妻を以て通  
常とす、妻妾の間互ひに親しく、且て嫉妬の念あることなし、オン  
チマツとは正妻を云ひ、ボンマツとは嬖妾を云ふ、妻は夫の家に居  
り妾は別居して生をなす、婦女嫁するの後は口邊に黥し、手甲に刺  
て、縦横文をなし以て他なきを矢ふ

葬式

アイヌ死するときは一族死屍を擁して慟哭すること數日、  
然る後高潔の地に葬る、其葬るときは牖より之れを出す、蓋これを  
神にするの意にして、戸は已れの出入する所なれば神威を瀆さんこ

を恐れてなり、喪に居るものと語るときは必ず追懐の哀を催ふさ  
いらしめん爲め、死者生前のことを語らず、家に横死のものあれば  
知人來り吊ひ主人の額を斫る、苦痛を以て悲哀を忘れしむるなり、  
老婆死するときは魂魄再び飯り來り、災厄を家人に及ぼさんことを  
恐れ、其家を焼き拂ひて他に移るを常とす

宗教

アイヌは多神教徒なり日月星辰山川火海等皆神として祀  
れり、熊を祭りて神となし大魚を祀りて又神となし、自ら造りたる  
什器をも猶ほ神とせり、其最も尊信する所はコタンカラカムイ則ち  
土地を造りたる神なり、之れを主神とし、其他は皆これが下に隸屬  
するものとなせり

熊祭

十月を以て禮節となし、神を祭るの大禮あり、熊を以て  
犠牲となす、此祭典を行ふには豫め子熊を捕へ來り、乳姆を附して  
之を養育し、凡二年にして舉行す、左に東蝦夷夜話の一節を抄録せ



さて冬月に至れば熊祭てふことあり、こは夷人の飼ふきたる熊を殺すときにして、夷中の一大祭なり、穴熊にわれ野熊にもあれ、雛熊を捕り来り、はじめはメノコの手鹽にかけて乳などのませて育てあげ、やうやく成長しぬれば家のはどりに丸木を二つ割にしたるを長く組立、井筒のごとくしたる牢をしつらひて入れ置き、二歳の冬を限りに殺すことなり、かねて一族へ約しナンコの木をもて弓矢をおほく造り、濁酒を醸して仕度をなしおき、既にその日にいたれば、一族の男女寄り集ひ、家の重器を取出し、こゝにて殺さんとおもふ場處を撰み、キナ菴をもて圍ひめぐらし、カムの席をまうけ、其左右へへイムシ太刀、ナンネ、ナイムシ、ツセツパ、鏡、ハヨケ、ハ鏡、タン、トン、ベ、小、イカ、ユ、プ、熊、ツウ、キ、孟、タ、カ、サ、ラ、盃、イク、バ、シ、ユ、イ、鬚、揚、な、の、の、寶、物、これらをとミカモイと唱へて、悉く

飾りつけ水楊をもてイナチを削りて所々に建る、其前に八間を隔て、高さ三尺ほどに杭をたて、上に籠をつけきて此所へいまだ引來らぬうちは、大勢の男女熊の居る牢の四邊をホイ／＼といひながら、手拍子をうちて躍りめぐる、主は家に在りこの日見舞悦びとして入り来るものへ、それ／＼式法ありて禮をなし、銘々へ酒を盛り、イクハシユイを添て差出す、容は式を正して飲むことなり、凡この間二た時はかり、や、仕度のとゝのひたるころ、主客一同熊の前に至り、又躍りめぐる、しかして畜ぬし様の蓋をどりのけ、みづから熊の首に綱をつけてかざり付たるカムイの場所へ引きて行き、首綱をなかくのばして中央なる柱へ熊をつなぎ置また大勢にて躍りめぐること前のとどし、熊は四邊を睨みてます／＼怒り呼吸せはしく吼り狂ふ、やがて夷人綱の端もて引出すを合圖に、假の弓矢もて四方八面より射出すに、その矢幾筋となく



熊の身にたつ、そをまた細長き木の先へ笹をつけたるをもてたち  
たる矢をはらひ落してまはる、その後邊より透を狙ひ射つければ、  
熊はれそれて狂ひ走るこのときおのれが乳にて育てあげたるメノ  
コの衆夷どもに躍りめぐることなれども、熊の今限をいまさら  
にれもひ遣りつゝ、愁然として歎きかなしみ熊にたつ矢をはらひ  
れどし、ものくるほしき有様なり、熊の勢おどろへたるころ丸木  
五六本持出でやがて熊をおさへ首を挿めば、夷人大勢いやが上に  
壓かさなり轉びおつれば、また起上りてれしかさなる、かくなす  
こと數度、熊の息いよく絶えぬれば一聲に祝詞をあげ、靜に引  
來りてまうけおさしカムイの坐に居え俯に伏さしめ、濁酒を盃に  
もりて供することなり、これより衆夷はカムイの前に團居してま  
た酒を酌む、これをカムイ飲といふ、これも終れば其場にて熊を  
解き、皮を剥ぎ、膽を收めて持歸り、その肉を羹になし、また酒

を酌む、畜主は流石に愁情少なからねども、その末を喰ひて酒を  
飲む、もとよりつくりおきし濁酒のあるかぎり晝夜をわかつたず  
うち寄りてくみかはす、これもまた夷地の習風なり  
土人ヲカムイ 土人の住家に就ては前説ける如し、住家の窓  
の外、四五歩を隔て、水柳を以て造りたる幣、夷地にては之れをイ  
ナチと云ふ、此イナチを立ちつらねて、櫓を結ひたる如くし、其先  
に鹿の頭を貫きおけるなり、大抵の家にもこれありてカムイを祀れ  
るものなり、カムイとは神を云ふなり、之れに對して窓を明け、こ  
ゝより殺したる熊の出し入れをなす、此窓は神聖犯すべからざるも  
のにして、こゝよりは決して内を覗くべからず、若し之れを覗くも  
のあらば、ツクナイとて過料を執らるゝなり、土人は熊をカムイと  
なせば取扱ひまた嚴確なりと云ふ  
酋長の大なるをハシワと云ひ小なるをオテナと云ふ、アイヌに



は君臣上下の別なきが如く見ゆるも毎部必ず會長あつて其民を支配し君臣の分おのづから定まる、會長は世襲にして長男之れを襲ぐを例とす、而して終身一次松前に來り水土の物を貢するの慣例にして、其謁見の時などは戦々競々唯過なからんことを期し、謹慎の状れのづから形に現はる、又未だ謁見を終へざるときは他出もせず通商もせず、酒も飲まず閉居謹慎して其期日の到るを待ち、謁見を終れば恩賜の米酒を以て家に歸り祝宴を開きて衆夷互ひに歡を竭して罷む言語は全く日本語と異り、自ら呼びてアイヌと云ひ、本邦人を指してシヤモト云ふ、語原何れも明らかならざるも、彼等は單獨なる濁音を有せず、多くはパピポの半濁音を用ゆ、北海道の地名多くは此アイヌ語に源を汲み、例へば空知太はアイヌ語にて瀧のゆる川の川口の意なり、故に今其附近の市街地は瀧川と名けられたるがごとき其他札幌はサツポロにしてサツは乾燥ポロは廣大の意なり、

河海の跡乾燥して廣大の陸地となりたる等の如く皆通例なり、アイヌには文字なければ唯口碑によりて傳ふるのみ、されば己の生年を知らず父母の死日を知らず、其記する處は年紀によりて年數によらず、譬へば某は某の山焼くる年生れ、某は某の捕鯨の年死せりと云ふのみにして唯暗記するに止まる、其久しきにわたるものは結繩の法を用ゆることあり、算數は少を先にし多を次にす、例へば三十五は「五其上 十引 四十ヨリ」(北海道地理に據る)にして頗る迂遠なる算法なり

第三章

北海道名所拾遺

惠山岬(渡島)

渡島の最東端に斗出し、岬頭に噴火山あるを以て有名なり、高さ二



千四十尺其狀頗る奇にして怪岩奇石亂立して海岸を縫ひ、徑道岩間を貫き漸くにして半腹に達することを得、東は濶茫たる太平洋にして眼界の及ぶ所際限なし、山下に温泉二ヶ所あり、何れも酸性硫黄にして専ら皮膚病に效驗あるも、交通甚だ不便なるを以て、浴客殊に罕なり

●七重試験場(同)

七飯村に在り廣さ十萬坪、周圍に堤を築き、牛馬を放ち、盛に杉松桑楮をやしなふ

●大沼熊の湯(同)

七飯より一里三十町、瀧の澤に在り、泉質は硫化水素、温度は九十二度にして皮膚病に特効あり、北に當り大沼小沼あり、兩水相通じて湖水となる、周圍凡そ七里あり

●神威古潭(後志)

小樽の西二里八町、朝里村停車場を距る約一里の海岸鐵道線路に沿へり、カモイコタンとは神の在す所の義にして、本道此地名多し、蓋アイヌ人の以て神とせし處なり、巉岩突兀として懸崖千丈頗る峻嶮なり

●神威岬(同)

積丹郡に在り、島上燈台あり、岬端を距る數町の海上にチカモイ岩メコノ岩あり、北海の波濤常に岩角を噛み、此間巉岩削立して海中に碁峙し、土人以て神となし舟此處を過くるときは蕪を結びて小舟の形をなし、米酒を奠し海に投じて之れを祭る、昔時此岬より以北婦人の入ることを禁じたりしが、文化十二年幕府其禁を解きたりといふ、俚歌退分に

忍路高島及びびもないがせめて歌棄磯谷まで

とは蓋婦人其夫の征行に臨み忍路高島 神威岬の以北 逸までは同



行せんとは到底及ばぬことなれど、せめては歌棄磯谷邊までなりとも同行したしとの意なり

●忍路(同)

番部岬の東十八町、市街の東西に兜岬、龍の岬あり漁家商戸沙涯に軒を並べ、雁頭の二丘一は外洋に面し一は餘市灣を望む、宛然箱庭の風致あり

●高島岬(同)

小樽灣の突角にして東北は天鹽の雄冬岬と相對して増毛の暑寒別一帶の山脈を望み、海上遙かに天賣焼尻の二島を見、眺望絶佳なり

●常山溪(石狩)

札幌より豊平川に沿ひて上るこる七里の溪間に在り、開拓使の始、行脚僧常山なるもの、河源を探検し、此處に温泉あるを發見し、浴場を設けて衆庶の病苦を濟へり、一條の坦道車馬を通じ、夏季遊浴

に來るもの多し

●上雨龍(同)

石狩日記に「兩岸岩石に成り、川中大岩多く、水怒り谷躍りて舟折らず、是より右手に括を突き、左手にて岩角を傳ひ、露根、藤羅を便りて行く十三四間、一步を過てば、數丈の深潭に落ち、巉岩たる岩角に身を粉にして足らざる險なり、過て簇々たる岩の上に出づ、此上を飛び越え行けば七八十間にして、川巾七八間に窄り、此上十二條の瀑布の孰れも高さ二丈三丈位、巾二尺、東岸千丈敷の岩あり、瀑布の下に鮭鱒數十尾取る、大瀑を眺望し居れば魚の瀧を登るなど目にひらりとする、あやまつて落つ時魚なるを知れり、神居潭に至る兩山數十條壁立、それに五葉松這ふが如く生ひ茂る、川巾僅か七八間に成り、底深く落々たる岩面一條の瀧になり落ち、傍らに宿さんと議す、余士人二人を召連れ其岸岩傳ひ、括槍を杖とし巨岩怪石の



上を飛越へ行くこと三百餘間、南岸峭立其奇筆状すべからず（中畧）土人岸の流水をもて筏を造り、是に乗り兩岸峨々屈曲として屏風を建てたる如き間を掉て行くに、四五十間にて奥の方七八間に一條の瀧を見たり、其下十五六間にして波立ち吼々と千萬の雷の一時に轟くが如く、波瀾狂立して近くに行くべからず、依て兩岸の岩に登り暫らく眺望するに、水煙吹き來り、肌寒く少しも留りがたし、七ッ過ぎ紅輪西に傾きしや、其映つること紅霓の如く輪をなし、我等の容も彷彿として瀑布の面に紫金の色を現はしぬ、云々」と以て兩龍川上流沿岸凡そ三十里の勝概を知るに足る

●新十津川（同）  
樺戸郡に在り、大和國十津川郷民の移住開墾する處なり、初め明治二十二年郷民洪水のため、田宅資産を悉く失ひ慘状云ふべからず、郷中の有志相圖り政府より十七萬圓の移住費を受け之れに移り、終

に有名なる農村を造るに至れり、戸數八百九十六、人口五千六百七十五あり、十津川の地名に因み是れを新十津川といふ

●黄金山（同）  
一名摺鉢山といふ、形摺鉢を伏せたるがごとし、昔義經の甲冑を置きし所なるが、今化して蝮蛇となれりと傳ふ

●神路崎（天鹽）  
アイカツピテより凡十二里を浜りたる岸にして巖剛立高さ千三百尺、川急流にして西岸は大石亂立せり、「神路崎高さ三百丈、絶壁恰も掌を立るがごとし、巖には温杉蝦夷松岩に匍匐し、まことに猿愁蛇退の奇觀なり云々」天鹽日誌に見えたり

●ナイプツ地方（同）  
天鹽川沿岸の原野中地積の廣大なるもの少からすといへども皆卑濕に過ぎ好地に乏し、只將來望あるものはナイプツ地方なり、即本流



九十二  
とナヨロ河との間に地形三角形をなし、東西に長く南北に狭し、至る處樹木繁生し蒼林蒼蔚として天を摩し、幹圍一丈乃至一丈七尺に及び實に本道第一の良材なり

●天鹽川 (同)

石狩川に亞ぎ本道第二の巨流にして、長六十五里に及ぶ、水流漲激滔々として海の如く巾二百間より二百四十間に達す、中流カモイコタンの早瀬あり、蜿蜒たる環流西岸は概ね笹原にして森林其間に介まり、東北岸に至り處々に丘陵を散見す、河岸は地卑濕にして今尚は荒蕪に屬し又措て顧みられざるもの、如きも、官設鐵道埃工の曉に至れば大に此地方の面目を一新するに至らん、水流は海岸に至りて急に南に屈曲し、凡二里にして始めて海に入る、今天鹽川を下れる人の實驗談によれば、此川は水流緩にして土人の掉すに妙を得たるものといへども、舟行はかくしらず、加ふるに名物の蚊は舟

の周圍を取巻き蚊除けとして寒冷沙にて製したる袋やうのものを頭の上より被むる、此邊の陸上は内地人の足を入れざる所あれば土地に名稱もなく道路もなければ人家もなく、川の兩岸は唯森々たる老樹の茂るのみ、樹なき所には荆蒺長く延びて人の丈に及ぶものあり、されば樹は茂るまゝ草は生ずるまゝ、すべて天然に放任しあれば荒野は益荒野となり手の着けやうもなきほどなり、而して此邊の樹木は一体に根淺ければ大風の時などは吹き倒されるもの多く、一抱にあまる大木の腐朽して地に倒れ居るもの誠にすくなからずと云へり

●網走湖 (北見)

湖畔概ね平丘にして東西一里南北三里あり、網走川上流より來りて此湖に入る、平低なる林壑を隔て、能取湖あり、風趣何れも愛すべし

●猿湖 (同)



一 條の砂洲を以て僅に海を隔てたる本道第一の海岸湖にして、周圍  
二十三里七町あり、南岸は概ね山岳にして高からずといへども山趾  
直ちに湖面に窄り幽邃の致あり、湖上の眺望殊に晩春融雪の期に佳  
なり、近時此砂洲を開きて一大港灣となさんとすの計畫あり

●利尻島 (同)

宗谷郡の西方凡そ八里、日本海中に兀立せる有名なる火山島にして  
美麗なる圓錐狀をなし、最高五千七百尺に達し、北見天鹽の海岸よ  
り之れを望むときは山頂の白雪雲に染まりて、其美なること名狀す  
べからず、山脚は全島に延び山趾概ね斷崖にして海岸悉く礫磯たら  
ざるなし、山頂火口なけれど全く火山質の砂礫を以て蔽はれ傾斜急  
にして山下稀に草原を見る、鬼脇村鴛泊港は舟泊の便利あり、現今  
海底電線の敷設あり

●禮文島 (同)

利尻島の北五海里に在り、船舶港は北方二岬をなしたる灣内に在り、  
地勢概ね高丘にして平地なく海岸處々奇礁あり、著名の漁場にして  
蟹戸漁家海岸に散點し、南に香深港あり、島中の名邑たり

●知床半島 (同)

東側の一帶は根室國に屬し相腹背して半島をなす、海岸崎嶇人煙殆  
と絶無にして足跡至らず、未開の地措て顧みられざりしが、明治十  
八年の秋に至り政府日本郵船會社に命じて根室網走間の航海を開始  
せしむるに至りて始めて知床半島を回航することとなり、往年此土  
の世人に知られざりしこと等稍探知し得らるゝに至れり、今茲に知  
床日誌の一節を抄して此天險の一端に資す  
俵岩 俵を重積したる如き大岩石海中に兀立す、一條の瀧あり、  
恰も糸を亂したるが如く數十仞の岩壁にかゝれり、又爰に掌を立た  
る如き岩あり、上は皆赤兀たる山つゞき青藍を敷たるごとし、五葉



松備匍し谷間々又雪に埋もれ眺望言はん方なし

蝮蛇岩 怪岩蝮蛇の頭の如く海に突斗せり其傍らに人立せるが如き五基の岩あり、傳へいふシヤマインル (辨慶) の妹此處に住みけるに其れを呑まんとして大蛇の來りしを辨慶が踏潰したりしが化して岩となりしと

立岩 波濤荒く岩岸峻はしく海中無數の暗礁起伏して舟楫頗る危険一擡を過つときは忽ち覆没して數尋の下魚の餌となり了らん、海豹暗礁を旋つて出沒し鷲影岩を掠めて翔けるなど物凄きこと言はん方なく鷄冠海苔波に漂ひ岸に打上げ磯岩爲めに皆赤しと  
フ、ウシノツ岬 岩石皆硫黄の氣に染て白くなり又赤く染む、仰向けば山腹に硫黄焼出し黒煙天に張る、百萬の雷の一時に轟くごとく、山岳鳴動して實に物すごし、海岸岩燕多しと

●納沙布岬 (根室)

本島東端の岬角にして、スイシヨリ、アキユリ、シボツ等の諸島其前に連り、遙かに千島の色丹島と相對す、其間を瑤瑤水道といふ、海中暗礁少からず、舟行甚だ危険なり

●屈斜路湖 (釧路)

釧路川の水源をなし、湖中に島あり岸概ね赭岩を以て鑿み、東南に一大坑あり、常に黒煙を吐き夜門に至れば湖面閃々白晝の如し、島中檜松密生し晝猶は暗く、三面の峯巒剣を磨きて湖に臨み、翠波掬すべしと雖も亦神氣人を襲はんとして凄味あり

●摩周湖 (同)

屈斜路湖の東四里、根室國境に在り、連山屏風の如く四面を圍み、碧燈宛として玻璃鏡を展べたるがごとし、湖水水口なく湖底より水潜つて西別川の源に通ずと云へり、大旱といへども水涸るゝことなく大雨といへども水増すことなし、眞に不思議と云ふべし



●十勝夷 (十勝)

十勝川沿岸土人の部落多く、久しく榛菜の間に勢威を振ひ、夷酋に  
猾倭の名あり、松前氏の時十勝領を設け、家臣の采有となせり、十  
勝日誌に「天陰河水愈漲り、雪汁吼々として十疊二十疊の水を押  
流し來る、是より向岸へ渡り、原を超ゆるウネナイ川小ホナボヤウ  
シ川小ホロナホヤウシ川此邊樺柏木原に出る、ウルソソ沼等超え丑の  
方に向ふ、ユウベナツ過て、シエマウナイ過て、リイフル下り、ホ  
ロノタ、茲にて船を呼で、ベツバラに越る、召連れ土人イソラムの  
家に宿するに其隣なる婆久しく病氣のよしにて女子ども多く見舞に  
集りたり、其中に一人の婆あり、是をへシルウタレといふ、此地の  
巫醫なり、病者あれば凡て神に祈りまた藥等を差圖するよし、其祈  
禱といふは病者の枕元に小蓆を布き、太刀短刀、鱒矢筒等をかざり、  
エナオを立て山海の神に祈り何れの方より何草を摘みて用ひよ、又

全快の有無等を示すもの本邦の巫に異なることなし、又奥地にては  
待人の遅速、走り人の方位を指す、其余種々の奇なること等を行ふ  
ことあり、ソウヤ邊にては之をシノナといふなり、其藥品の一二を  
記すに風邪には石防風を劑み煙草に接取呑む、眼病には紫菀を水に  
浸して附け、産後血の道には沙參又山篇豆玫瑰また之れを小兒の口  
中の瘡に用ひ、癩には竹節人草、胸の痛には山芍藥、腫物の吸出に  
は舞雁草を唾にて浸し附てよし、梅毒には佛甲草胸、骨の痛に金雞  
脚石長生、腹痛には邪蒿寒、邪を拂ふに辛夷また白管沼草等種々の  
採藥にして却て和風の藥を用ゆることを好まず、其功驗も却て其風  
土に適するや治するもの多しと語りぬ

●様似險道 (日高)

海岸は絶壁を以て疊むこと數十尺、行道險惡にして干潮の時にあら  
ざれば崖下を通ずること能はず、されば満潮の時は止むなく崖を攀



じで山腹を行きしも、巖岨岨登降意の如くならず、時に蟹歩時に螺躍若し一步をあやまれば身は千仞の谷底に粉碎すべく、行人の此處に歩を停むるものなかく少からざりしが、寛政十年近藤守重なるもの此險道を開鑿して一の新道を開きしより以來人足漸く繁くなるに至れり

●神威湖 (同)

豊似嶽の東麓、猿留川の上流二里十丁の處に在り、山嶺四圍一滴を分たず、水面は碧澄藍の如く、土人之れを以て神湖と呼ぶ、蓋湖水一片の落葉を見ざるを以てなり、往昔幌泉より猿留へ通ずるに此處を經、湖をすぐるまでは途中談話するを禁したりと云ふ

●百人濱 (同)

襟裳岬の北二里に在り、傳へ云ふ沙具沙允の逆亂に黨したる鑛夫百人を此處に戮したる地なりと、或は船難破して溺死の人を埋むと其

●襟裳岬

他數説あれども信するに足らず

幌泉驛の南凡四里、岬角の一大岩山より遠望すれば西に夕張染退の諸峯あり、北は雄雌寒山突兀として聳々、東南一帯は浩滔涯りなき蒼海を瞰視し、岬端岩礁多くして舟行に便ならず、白浪常に崖を洗ひて、岩根にからまる昆布はさながら布の漾々揺らるゝ如く、土人が之れを見てユリモ様の御髭と唱ふるもまことに中れり、昆布は品質最良にして水際より沖五六問の處に密生し全道第一の産地なり、岬上燈臺あり

●沙具沙允壘 (同)

染退川の上流茶志骨に在り、寛文年間據りて以て松前に叛せし處なり、城壘の周圍三十町余、大石を疊みて之れを築く、高さ三丈余、樓門牆塼皆シリカリと稱する魚の鱗を以て之れを造る、沙具沙允と



は東部シムリヤリの酋長のことなり、身長七尺魁偉にして膂力強く萬石を扛げしといふ

◎義經神社 (同)

沙流郡平取村に在り、源廷尉を祀る祠なり、傳へいふ廷尉平泉の戦に敗れて此地に遁れ波恵に居り武威を以て四隣の夷酋に君臨せりと、社前は一帯屏風の如き岩峙ち、沙流川は濛々其間を流れて風光頗る絶佳なり、波恵には奥菱の宅趾あり、鬼菱は波恵の酋長にして沙具沙允と戦ひ戦没したるものなり

◎老嫗石 (同)

静内に在り、山溪に一岩あり形老嫗のごとし、口碑に傳ふ、女神の化する所にして蝦夷人種の始めなりと

◎長万部 (膽振)

噴火灣沿岸中緇の漁場として知らる、沿海十六里の間は一帶の砂濱

にして道は榆林の間を通じて熊笹深く老ひ茂り、蓬は人の身より高くして山水眺望の眼を妨ぐるごと一方ならず、一條の河流緩く來りて兩岸膏腴の土壤に乏しからず、戸數四百五十七、人口三千二百四十五あり、此地又膺膺獸の獵場として昔時松前家より幕府へ納めしは専ら此場所なりしといふ、漁期は秋晚十月より翌年三月頃までの間にして其獵夫をデハ蝦夷と稱し此に一部落をなし、天氣晴朗風穩かにして薄氷の張る日を待つて後、海神を祭り獵舟を出し、一時に五六頭を得るを通例とす、近年漁獵甚だ衰へ土人又山中に遁れて漁場空しく存するのみ

◎禮文華 (同)

東海隨一の險にして往古蝦夷地の六大險要の一となせし處なり、長萬部を距る東へ四里、北は後志國境にして一道の岩山雲の湧き立ちたる如く、愈近づけば愈險、巉岩岬岬として猛浪其岸を洗ひ、山高



く岩峙ち、密樹森々葉葉と重なり根根と錯り、一面の叢林絶頂に雲を呼び崖頭の大樹水に望んで海を蔽ひ、水又崖を登りて樹根を洗ひ岩落ちなんとして木之れを支へ、木落ちなんとして岩之れを支ふ、断岸一帯三里に近く、東海岸道路は其背後を通ずるものにて頂上を賤坊峠といひ海面より高さこと千尺余、前は後志國にして壽都郡の平野を脚下に眺め、長萬部の白沙青松さながら語らんとするに似たり

●有珠灣 (同)

岬角相擁して囊の如く、水深くして大船巨舶を繋ぐに宜し、奇石怪岩灣端に周圍し、無數の島嶼中に點々す、灣口の丘上眺望甚だ佳にして右顧左盼遠近の山水を一眸に集む、有珠嶽は有名なる噴火山にして灣内の白波と常に應接に違わらざるもの、如し、岩上に小堂あり樹木蔚蒼たり、大白山、善光寺の舊跡にして此邊紋龍村の牧場多

●白老驛 (同)

室蘭の東十一里にして停車場のある所なり、驛の西端に白老川あり、河口砂堤を築き海濱一帯濱砂の盡くる所遠望甚だ佳なり、殊に一奇觀と稱すべきは樽前山嶺の赭禿春夏の比、日光に映じて爛班たること之れなり

北海道には火山灰地質の場所少からざるが、之れを利用することに就ては久しく調査中にて本年始めて此驛に於て水稻を試作したるに一反三倭 (一石二斗) 位の收穫ありたれば、猶ほ十分に肥料を加へ耕作上注意せば、五俵位收穫を得ること容易なるべし

●森 (渡島)

茅部郡に在り噴火灣に沿ふたる一小邑にして民戸三百に満たざれども附近村落の中心として、警察分署あり、役場あり、郵便電信局學



校病院等あり

●龜泊温泉 (同)

森の東北二里餘の所に在り、此邊は温泉の湧出する極めて多く、龜泊温泉より南二里許にして磯谷温泉あり、大舟川の上流に大舟の湯あり、之れより遡ること十余町にして上の湯下の湯あり何れも奇効に富み、自然の風光明媚と相待て心神を爽快ならしむるに適す

●瀧の名所 (同)

大舟川の上流を行けば大小七個の瀑布あり、岩角碎けて糸を吐き布を垂る、所仰げば横津袴越泣面の連峯は屏風の如く西北に聳へ、東南の峯巒大舟三森台場は碧翠滴らんとし、これより東行銚子岬に進めば奇岩怪石の間岩を噛み石を打ち、垂簾十丈、其凄味云ふべからず、即ち二階、二又、王簾等の諸瀑是れなり

●矢越岬 (同)

上磯郡の最南端に在り、岬端絶壁をなし、山の高さ九百尺、其脈延いて陸奥の丸山に連続す、昔時妖神のために海路通せざりが、源義経唯一箭を射以て航路を開きたりと傳ふ

●花咲港 (根室)

根室半島の南岸に在り、根室港と腹背をなし冬季流氷のため根室港の航海社絶する間は船舶此港に集來するを以て市街稍盛なり、

●野付灣 (同)

野付岬海中に斗出して灣口を擁し、岬は砂嘴にして其端は野付村なり、灣内の廣さ凡そ十里、中にキモベ、ハレタ、ヤクモノ、ニシヤミの四砂島あり、此島に土人あり、肉食を藏し船具を製成す

●標津 (同)

戸數百六十四人口七百八十三を有する小村落にして野付半島に接近せる海灣に在り、東海岸の要路に當れり



●熊飛瀧 (石狩)

瀧は石狩川の一支出張川に在り巉岩相峯々奔流怒號す、晩秋の頃に至れば四山の楓枝錦を飾り常緑樹の幹其間に聳え紅光翠色相點綴し眞に文人畫伯の意思を恢弘するに足る

●帶廣市街 (十勝)

十勝中央市街として十勝國河西郡帶廣村なる十勝川岸に新設せられたるなり、兩三年前までは樹林天を覆ひ荆棘地を埋むるの外更らに眼に入るものなかりしも今や蔚然たる樹林は變じて家宅となり、蒼々たる荆棘は化して街衢となり、戸數三百餘實に日進月歩の勢あり街衢廣袤大約方四十五町にして市街道路は巾十五間規模を米國華盛頓府に取りて設計せしものなれば其市區の如きは東京の如き幾多の費用と勞力とを投じて改正せし街路に比して幾層の完備せるを見る官設鐵道竣工の曉に至れば盛大なる一市街となるや期して待つべきなり

なり

●大津 (同)

大津川の河口に在る一小港にして戸數二百五十八、人口千十九を有す、此地十勝平野の咽喉に當り、上流沿岸の開くるに従て、自然物貨集散の要地となるべきを以て、年と共に人口増加し商戸鱗次し純然たる一市街をなせり港内水深くして大船巨舶を泊するに宜しく、漁船の往復常にあり、港の西南茂寄も亦一小市街をなし、海岸は砂濱多く船舶を泊するに便ならざるも、大津を除いては別に舟泊の地なきを以て假りに此地を繫船場となせり、此處に十勝神社あり、大和田津見神を祀る

●然別湖 (同)

河東郡に在り其地海面を抜くこと凡そ二千尺周圍三里十五町四方連山にして池水極めて清澄なり



●幌泉 (日高)

東海岸の往還に當り戸數二百十五、人口千三百二十四あり、往昔此地を以て蝦夷奥蝦夷の分界をなせり、物産は昆布を以て第一とし、附近沿岸より採集するもの年々巨額に上り、市街殷富を極む

●浦川 (同)

室蘭の東四十七里戸數四百三十八、人口二千百二十あり、附近物貨の集散場にして、根室通の船舶時に寄港して荷物の卸揚となし、旅人宿料理店遊廓等繁盛せり

●支笏湖 (膽振)

千歳郡の西南部に在り、四面の層巒湖畔を擁して翠色倒影風致あり、其清淨なること洞爺湖にゆづらず

●鷓川 (同)

日高山脈より發する處の大河にして國の東端を流る、長さ三十七里

河流緩にして急流少し、沿岸一帯地膏腴にして禾稻に適す、上流累標より十五六里にしてシムカプと稱する一原野あり、天然四塞の地にして樹木蔚蒼晝猶は暗く頗る沃土なり、沿岸の總面積凡そ七千町歩に涉り、然かも豊土にわらざるはなく殖民上最も心を用ふべき所なり

●苫小牧 (同)

札幌、東海兩街道の分岐する所にして室蘭を距る東の方十七里、東海岸の一小驛なり、附近沿岸は砂濱多く、蟹擔點々土人の小部落あり、戸數二百九十八、人口千七十五

●等樹院厚澤寺 (同)

國內有名の巨刹にして山號を飯嚮山といふ、本尊は藥師如來天臺宗東叡山末僧秀曉の開基にして文化元年の創立境域四百五十坪幕府の時年米百俵十二人口俸金四十八兩を給せり、此寺は往昔蝦夷の行基



とも言はれたる美濃の僧圓空が小庵を此澤の奥に結びしを基礎とし  
て堂宇を建つ、境内に鐘樓觀音堂千体佛堂あり

●紋別港 (北見)

枝幸を距る東南二十三里の處に在り、戸數三百三十三にして人口一  
千百十四を有し、市街は山麓より海面に向つて傾き商家旅人宿料理  
屋等は一方高臺に倚つて連戸し灣内水淺さも北に辨天崎の突角あり  
北風を凌ぐを以て辛ふじて碇泊をなす

●湧別村 (同)

有名なる一大農村にして市街湧別川を夾みて成る、明治二十八年の  
創設にかゝる、地味膏腴にして繁殖の度高く黍園蔬園牧場相連り數  
里に渉る、近時大に殷富を極め、人口大に増加し將來有望の處たり、  
戸數千三十五、人口三千八百三

●野付牛 (同)

常呂郡第一の農村にして著名なる常呂原野の開墾地たり、市街は常  
呂川に沿ひ丘低く谷長く山遠く地廣くして、人口實に四千八百三十  
四あり

●斜里 (同)

網走を距る東九里三十町、斜里郡の中央海岸に在る一小驛にして戸  
數百十六、人口四百二十一あり

●宗谷岬 (同)

本道の西北端に在りて露領樺太のノト岬と烟波相臨み、海中岩礁  
少からず、岬端巉岩岬岬として屈曲多く小船を繋ぐに便あり、之れ  
より西廻二里にして宗谷港あり、戸數三百二十八、人口九百十七あり

●雄冬嶺 (天鹽)

岬端海面に斗出して斷岩壁立怒濤の觸るゝ處碎けて底となり崖とな



り蒼樹森々として之れに臨み、舟行甚だ危険なり

●留萌 (同)

増毛の北四里十五町の海岸に在る新開の市街なり、嘗に船舶碇泊の要港たるのみならず、留萌川の兩岸肥沃の地積廣くして附近の開墾と共に市街發達し、殊に沿岸は漁業盛なるを以て海産物集散の中心場をなせり、戸數五百八十、人口二千四百六十九

●石狩町 (石狩)

石狩河口に在る有名なる鮭漁場にして戸數千三百四十九、人口四百八十二を有す、市街は石狩川の左岸に沿ふて商家櫛比し河口は深さ一尋より五尋に至り商船を容るゝに足る、毎年立秋より彼岸前後に至る間、内地へ輸出する鮭の價額數萬圓に上るといふ

●岩見澤 (同)

札幌より幌内に達する鐵道此處より分れて一は南室蘭に向ひ一は北

空知太に至る、此地は明治十七年より同十九年に至るまで三年間に亘り鳥取山口以下十七縣士族の移住せし處なり、有名なる一農村にして戸數三千八百三十七、人口一萬四千八百七、郡役所警察署郵便電信局學校病院各種の農産製造場等あり

●江別村 (同)

江別川の石狩川に會する處に在り運輸交通の便あるのみならず、石狩平野の中央に位し將來有望の處にして戸數千九百九十七、人口六千二百九十九あり、此地官設鐵道に沿ひ停車場あり江別橋は長さ四十年の鐵橋にして其構造頗る完全せり

●登川村 (同)

夕張炭礦探掘場のある所にして炭出のため一市街をなし、戸數一千三百六十三、人口六千九百二十二あり

●月形村 (同)



後に丘陵を負ひ前に石狩川を控へ戸數七百三十八、人口二千八百七十一あり

●雨龍農場 (同)

地積一億五千万坪、専ら泰西農収の法に準據し絶大の業を將來に期せしに中なる頓挫して遂に小作農を募るに至れり、明治二十二年侯爵菊亭修季等の請ふて貸下を受けたる所なり

●辨天岬 (後志)

美國の西端に在り岬角の一小島を大黒島といふ、島内樹木多く此邊鮮の漁期に至れば魚棚を一面に掛くるといふ

●幌武意 (同)

マツカ岬の西に在り、此邊一帯の海岸は奇岩怪石を以て蔽はれ漁家數十海に臨むで崖下に散點す、西蝦夷日記に大岩壁つゞき廻りて外海に鳴る波浪愈々高くして岩ますく怪しく一撃せば急ち魚腹に葬

られん

●好來瀧 (同)

古宇郡に在り、海岸大森横間より川に沿ふて上ること十二町

●辨慶岬 (同)

壽都の西に斗出せる岬角にして岬端ごとく奇崑燈臺あり以て航海の針路を示す、傳へ云ふ昔判官義經此地より異邦に渡れりと、背部に土壘あり、辨慶角力場といふ、周回十余間形土俵のごとし、辨慶が甲冑を晒らせし處なりと荒誕信とするに足らず、岬頭近く岩内の雷電岬と相對し眺望甚風致に富む、横澗美谷フシヨドマリ等の岬端參差として數點の漁家溪谷の間に隠見し、香渺たる洋上白帆を孕むで遠く水天の間を縫ひ、朱太川兩岸の田疇山隈に延び、幌別山天狗嶽觀音山等其後に迫り神氣人を襲ふの感あり

●渦の澤温泉 (同)



朱太川の上流一里、字湯の澤に在り、泉質は鹽類礦にして冷泉なり、慢性消化器病其他諸種の貧血症に功能あれども交通の便なし

●黒松内越 同

擔振の長萬部より後志に出る山道にして壽都灣に連る、戸數二百五十三、人口千六十八、東海岸路と西海岸路との連絡をとるを以て有名なり

●白糸岬 同

狩場嶽の余脉にして岬頭海面を抜くこと二百尺にして一條の素線を曳く、白糸の瀧是れなり

●太櫓 同

太櫓川の南岸に沿へる一寒村なれども近村よりの交通よく、兼て魚漁の地なるを以て農檐漁戸二十町の間、散點し戸數三百二十四、人口千五百二十九あり

●鵜泊岬 同

太櫓の南一里又ミダレ岬といふ、危岩波間に出没し、漁檐鱗次せる所を鵜泊村とす、戸數百二十七、人口九百四あり

●奥尻島 同

久遠郡を距る海上五里の處に在る一孤嶋にして環海の地漁利夥しく、住民皆之れを業とし、又耕耨するものなし、島内の名邑を釣掛村とす、東海岸に屬し熊石より海上九里函館より五十九里、沿海十八里岬角多く殊に西北海岸は秋冬二季波浪荒く漁利又なし、島内の名物を帆立貝とす、大さ盈のごときものあり

●古平 同

古平灣に臨み町數五、人口六千余、岩内以北の小都會にして其西に丸山岬あり

●湯の澤温泉 (渡島)



熊石の東端見市川を逆る一里二十丁の處に在り、泉質硫化水素、諸症に效驗あれど地僻にして交通不便なり

百二十

●乙部温泉 (同)

乙部村の北一里の山隈に在り、風光絶佳なり

●火山島 (同)

小島大島は何れも火山島にして小島は渡島の西南隅海上に在り、福山を距ること六里、周一里二十一丁あり、沿海漁介に富み殊に大なる鮑を産す、されども常住の居民なく只出稼の漁家數戸あるのみ、大島は小島の西北に在り、松前郡江良町を距ること十二里餘の海上に在り周圍凡三里半、島中川流なく且薪材に乏し移住に適せず

●熊石村 (同)

兩志郡の名邑にして人口二千七十一あり、横潤い村の西端久遠の境に在る荒磯にして前にヨシカ島といふ嶼礁あり、此邊一帶の沿岸は

行路甚だ難澁なるも漁網の利少からざるを以て漁家軒を並べて寂寥たらず

●霧多布 (鋪路)

岩層より成る島嶼中にある一小村にして戸數百九十四、人口八百五十三あり、市街は一章を隔て、濱中村と相對す、島の周圍凡そ二里、海中至る處に牡蠣蛤あり

●泊村 (千島)

千島全島中第一の良港にして國後島の西南に在り、戸數百六十二、人口八百二十七あり、障壁連綿として北風を防ぎ船舶の碇撃に宜し

●チャチャ岳 (同)

火山にして美麗なる重圓錐形をなし、一の富士形の上に復小富士形を載せたる觀あり、高さ五千三百尺にして頂上に湖水あり西流して瀑となり、之れを承知邊といひ壯觀なり



●髻塚 (同)

擇捉郡に在り、蝦夷の蝦夷剪る所の髻を集めて斯に埋む、文化四年三月箱館奉行安藝國正養石を建て之れを記す、其文にいはいはくエトロフ島ハ東蝦夷地の奥にして松前を距ること三百里ばかり、その島めぐりは二百六十里に過ぎ北極地に出ると五十度にあたり、きはめて寒し、寛政の頃より蝦夷が島のことを所置せさせたまひ、享和二とせには筑前守藤原の安倫と正養とを其司として彼の島のことを司どらし給ふ、その中にも此島は外國に近ければ衛護最も嚴なる可とてその官吏を擇び初には近藤重藏守重山田鯉兵衛嘉重其次菊地惣内下司には松田仁三郎關谷茂八郎細見權十郎等代る、此處を承る、此地は大灘の離島にして、古より船のゆき、たやすからざるにより爰に住夷とも衣食の品をはじめ魚捕る具なれどもそなはず、飢寒に迫るもの其數を知らず、彼諸官吏これ

を患ふることせちにして攝津國兵庫の船人高田屋嘉兵衛なるものは海路のことに巧みなればとて、このものをすゝめ擧げて船をやらしむるに則ち水路を考へ得てはじめて大船のゆきをし、夫れより年々にわたる船たえず諸々の品を運送し魚捕の具も全く備りければ夷どもなりはひの道を得てはじめて衣食に足ることを知り、手の舞足の踏むをおぼえず、朝な夕な遙かに本邦の方をのぞみ其國恩を仰いで止まず、抑此島は外冠の警衛のみにして苟國益を圖るべきにあらざりしが、思はざりき所もひらけ人もましけるほどにその國産を出すこと數萬に余れり、是天より仁政を助けたまふなるべし、又南部津輕兩侯の英士許多をやりて此警衛はこゝのみにあらず、蝦夷地の内あまた所にして兩家のいさをし又大なりといふべし、已にかくのごとく内外の處置全く備りぬ、かくて夷どもその國恩をかしこみ奉るのあまり、髪を被り袴を左にした姿



百二十四  
を慙ぢ、皆上國の風俗をねがひ、自から長き髻を剪髪を結び男も  
女も夷の姿なるもの今やひとりもなし、實や風を移し俗を易ふる  
こと彼諸官吏のいさをしにしてもとより仁政の及ぶ所なり、則剪  
りたる髪をわつめてこの碑を建て名けてその國恩のいちじるしさ  
ことを不朽にとゞむるのみ、  
歌に曰く

かしてしないまその蝦夷が住む

千島にわまる御代のめぐみは

●酒泉 (同)

替杯島の岩間より湧き出づ、味酒のごとく甘きこと梨に似たり、土  
人これを稱して神泉と號す、島は得撫の東北十一海里の處に在り、  
島中樹林なく只雜草を生ずる一岩礁なり

●占守島 (同)

帝國の版圖こゝに盡くる所にして一水を隔て、露領カムサツカ半島  
と相對す、全島平地にして土地肥沃、植物の生育極めて良しといふ、

●石狩の鮭獵

漁期は毎年九月十五日より十二月二十日まで九十八日間にして漁獲  
の盛なるは十月下旬より十二月初旬の間なれども其最も大漁にして  
四方の來觀者をなぐさむる季節は十一月なりとす、漁獲の方法は曳  
網を用ひ網一統に漁夫を使用すること少きは二十名多きは四十名な  
り、海は建網曳網にして網一統少きは五十名多きは九十名の漁夫を  
使用せり、其中同地丸十五印村上ノ氏の漁場西濱に於ける大網の  
如きに至りては漁夫百餘名節面白き曳唄の音頭の下に一齊に力を合  
せ其曳く有様は實にいさましく見榮わりて筆紙の盡し得べき所にあ  
らず、三十一年の收穫高は約七千石に上れり

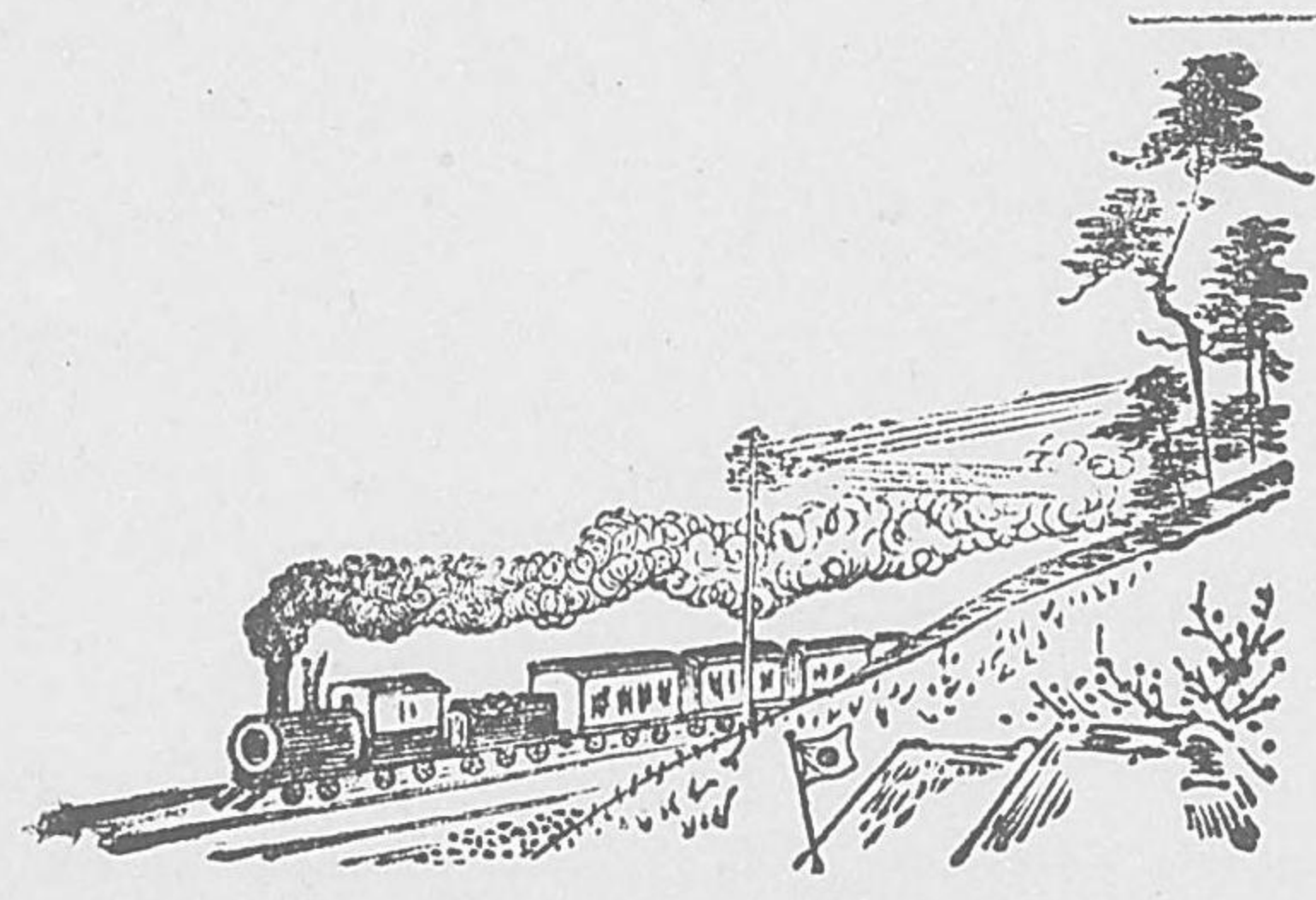






北海道名所案内

根室國 二、三九五<sup>方里</sup>六  
 根室郡 一、六八六<sup>方里</sup>一  
 花咲郡 野付郡 標津郡 日梨郡  
 千島國 一、〇三三<sup>方里</sup>、四六  
 國後郡 釋捉郡 紗那郡 藥取郡 振別郡



附 間

北海道各驛里程表

第四章 北海道各驛里程表

松島	札幌ヨリ函館ニ至ル本道	五、二七 <sup>丁</sup>	六、三〇 <sup>丁</sup>	函館	四、〇八 <sup>丁</sup>
千歳		三、三四	五、〇一		
若小牧		六、三四	二、〇〇 <sup>里</sup>		
白老		五、二七	七、一七		
若小牧	札幌ヨリ根室ニ至ル本道	一、六、二三 <sup>丁</sup>	四、〇五 <sup>丁</sup>	様似	三、二七 <sup>丁</sup>
勇拂		三、〇〇	四、二七	幌泉	六、三〇
鶴川		四、一八	五、〇七	猿留	六、三〇
左路太		三、二二	五、一六	廣尾	五、二三



北海道名所案内

留	増	濱	厚	石	篠	白	尺	昆	大	勇	歴
前	毛	益	田	狩	路	糖	別	布	津	洞	舟
四、〇三	九、二三	七、一〇	五、一〇	三、二三	三、一〇	四、一一	三、三一	四、〇二	四、一〇	四、一五	五、〇五
枝	宗	稚	天	苦	鬼	厚	ヨリ	厚	仙	昆	釧
幸	谷	内	鹽	前	鹿	岸	カタムサリ	岸	鳳	布	路
二五、二六	六、〇〇	一五、一七	一六、〇三	五、〇〇	六、〇〇	三、二九	四、二一	五、二三	六、〇八	四、〇〇	七、二三
斜	網	鑑	湧	紋	幌			根	落	初	濱
里	走	沸	別	別	内			室	石	田	中
九、一二	七、〇五	八、二〇	六、〇五	一三、一九	一〇、一九			六、〇〇	三、三五	五、一八	六、〇〇

北海道各驛里程表 第四章

對	野	古	岩	山	川	小	錢	漂	瑠
雁	塚	平	内	道	村	樽	函	津	邊
四、一六	五、〇五	五、二三	六、〇六	五、一八	五、二七	三、三四	五、一〇	七、二七	七、一六
當	泊	神	全	萬	島	壽	島	別	春
別		惠	長	部	古	都	丹	海	別
二、一一	三、二七	七、二一	五、〇七	四、〇九	五、二九	五、〇二	六、〇二	四、〇〇	四、〇〇
對	岩			函	森	山	黒		
見	内			館	越	内	岩		
澤									
六、〇二	三、〇六			一、一八	六、二四	四、二一	五、〇二		



北海道名所案内

市來知	二、一六 <sub>丁</sub>	當別	五、二〇 <sub>丁</sub>
月形	五、一五	石狩	四、〇四
月形ヨリ留萌ニ至ル			
奈井江	九、〇四 <sub>丁</sub>	樺戸	五、〇一 <sub>丁</sub>
尾白利ヨリ尾白利加ヘ			
樺戸	五、一五	空知太	三、〇〇
空知太	三、三〇	留萌	四、〇〇
尾白利加ヨリ惠谷別ヘ			
市來知空知太ヲ經テ越路ニ至ル			
奈井江	六、二三 <sub>丁</sub>	神成古丹	三、〇七 <sub>丁</sub>
空知太	三、〇九	越路	五、〇四 <sub>丁</sub>
音江法華	六、〇〇	伊香牛	五、〇〇
幌別ヨリ長萬部ニ至ル			
室蘭	四、一六 <sub>丁</sub>	虻田	四、〇七 <sub>丁</sub>
紋	三、一二	禮文華	四、〇三
長萬部	六、二八 <sub>丁</sub>		

北海道各驛里程表 第四章

塘路	六、二七 <sub>丁</sub>	標茶	五、二二	カタクサル	六、一四	野川	三、二七	網走	七、〇九
銅鑼標茶(カタクサル)ヲ經網走ニ至ル									
角田	五、三三 <sub>丁</sub>	岩見澤ヨリ苦小牧ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	三、二八
角田ヨリ「アピラ」ヘ				千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
東	五、〇〇 <sub>丁</sub>	泊ヨリ瀨石ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
瀨石	五、〇〇 <sub>丁</sub>	函館ヨリ江差ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
大野	四、二七 <sub>丁</sub>	函館ヨリ江差ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
大野ヨリ龜田ヘ	四、二七 <sub>丁</sub>	函館ヨリ江差ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
鷓村	一、二〇	函館ヨリ東海岸通り森ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
鷓村	一、二〇	函館ヨリ東海岸通り森ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九
鷓村	一、二〇	函館ヨリ東海岸通り森ニ至ル	三、二七	千歳	七、二〇	千歳	八、〇〇	網走	七、〇九



北海道名所案内

戸井	七、二四 <sub>丁</sub>	臼尻	二、〇二 <sub>丁</sub>
樞法華	六、二一	鹿部	四、一五
尾札部	四、三三	森	七、〇六
函館ヨリ西海岸通リ壽都ニ至ル			
茂邊地	五、一九 <sub>丁</sub>	石崎	五、二九 <sub>丁</sub>
木古内	五、〇〇	江差	六、一二
知内	二、二三	乙部	三、〇五
福島	七、〇〇	鶉	四、三一
福山	五、〇二	乙部ヨリ 熊石ヘ	六、二〇
江良	五、〇〇	久遠	六、二〇
函館ヨリ各地港ニ至ル航程海里			
浦鹽	四百二十四海里	天津	千五百三十海里
上海	千二百二十海里	芝罘	千二百九十海里

北海道各驛里程表 第四章

寧波	千七百七十八海里	廣東	千九百四海里
香港	千八百二十五海里	厦門	千五百十六海里
新嘉坡	三千二百七十一海里	馬尼刺	二千七十海里
ハタビヤ	三千七百三十七海里	シドニー	四千八百四十五海里
ハトロホー ルスク	千六十六海里	桑港	四千四百六十九海里
本邦東海岸横濱及長崎航程海里 (函館記點)			
八戸	百九海里	宮古	百六十九海里
山田	百七十九海里	釜石	百八十八海里
萩ノ濱	二百六十六海里	石濱	二百七十二海里
横濱	五百二十九海里	四日市	七百二十九海里
大阪	八百五十五海里	神戸	八百七十六海里
長崎	千二百五十八海里		

西海岸馬關航程海里 (全)



北海道名所總內

青森	酒田	佐渡	伏木	境	福山	壽都	小樽	宗谷	森	釧路
五十九海里	百八十九海里	二百四十七海里	三百四十七海里	五百二十九海里	四十二海里	百五十八海里	二百二十一海里	三百三十海里	七十六海里	二百一海里
土崎	新潟	直江津	敦賀	馬關	江差	岩内	増毛	室蘭	厚岸	
百四十四海里	二百四十七海里	三百二海里	四百三十九海里	六百八十九海里	八十二海里	百七十海里	二百七十六海里	七十九海里	二百三十二海里	

百三十六

第四章 北海道各驛里程表

濱中	千泊港	内保	紗那	單冠	西別	増毛	鬼鹿	香深	枝幸	小樽
二百五十二海里	二十三海里	百一十六海里	百五十二海里	百五十七海里	七十五海里	四十八海里	百三十海里	百五十三海里	二百十三海里	古平
根室	斜古丹	振別	薬取	別飛	網走	燒尻	鴛泊	稚内		天賣
二百九十五海里	六十三海里	百二十六海里	二百十七海里	二百七海里	百十五海里	八十三海里	百三十八海里	百八十七海里		二海

百三十七



北海道名所案内

里、久遠ヨリ奥尻へ十四海里

北海道名所案内終

函館比須町角

歐米流行

正札附一厘モ引ナシ

市交帽子造

舶來帽子、同鳥打帽、和製帽子各種  
舶來メリヤス綿絹毛各種、絹半欠類  
右ノ外歐米雜貨種々

日本メリヤス製造株式會社東北大特約店

弊店メリヤス御販賣ハ常に東京市價ト同價ニ有之候

三十一

関川洋品店



北海道名所案内

里、久遠ヨリ奥尻〜十四海里

北海道名所案内終

函館比須町角

歐米流行

正札附一厘モ引ナシ

オース帽子造

舶來帽子、同鳥打帽、和製帽子各種

舶來メリヤス綿絹毛各種、絹半欠類

右ノ外歐米雜貨種々

日本メリヤス製造株式會社東北大特約店

弊店メリヤス御販賣ハ常に東京市價ト同價ニ有之候

関川洋品店



# 最良・德用 醬油



釀造元  
**大塚茂十郎**  
 兵庫縣尼ヶ崎  
 大日本精釀醬油  
 商標登錄  
 全國賽會  
 進會第一  
 金賞牌  
 北海道一專賣  
 長田富藏  
 醬油部函館港末廣町

三十三

小店特色



和洋  
小間物雜貨問屋

二羽鶴石鹼本店

長田富藏

函館區末廣町五十五番地

電話架設中

荷造注意 ● 出 荷 速 迅

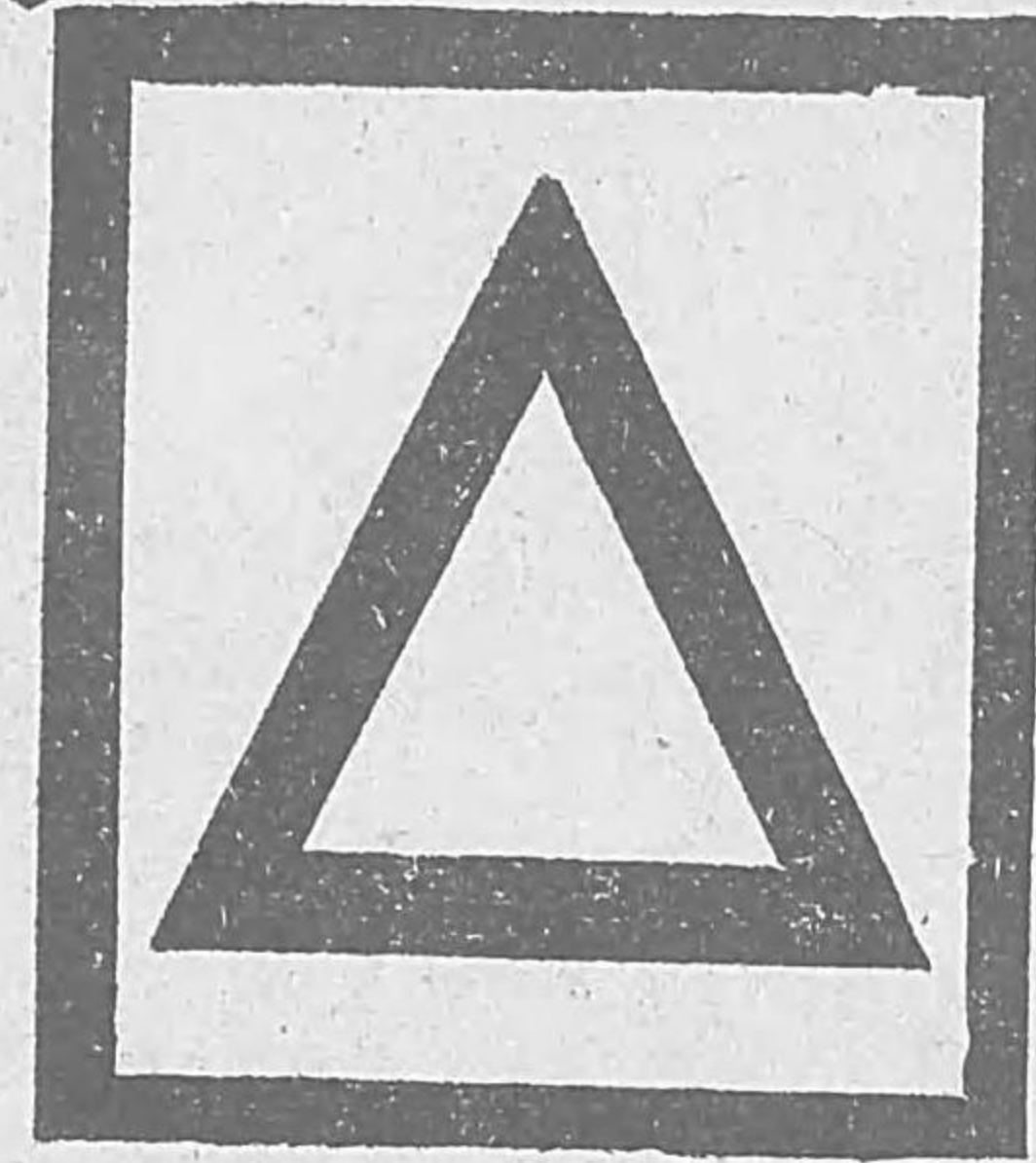
百 事 懇 切 ● 他 店 不 讓

薄 利 勉 強

三十二



# 船具 漁具 百貨



函館弁天町  
杉野商店  
電話三五六番

## 營業品目

萬袋物及附屬品一式  
御櫛笄簪頭髮附屬品  
內外有名化粧品販賣  
諸紙帳簿學校用品類  
小說雜本及小同紙類  
時計附屬  
及指環類

洋服附屬品  
印刷肉類  
文房具種々  
理髮用具  
諸糸及組物

### 卸小賣問屋

公  
向井小間物店

小樽

開運町六十六番地  
電話 二二〇  
ムカ井 二一〇

各品共最新流行品取揃價格低廉  
各品共別調御好高需應誠實迅速



函館東川町貳一七

製造所



佐野硝子

ランプ食器

化学器

調製仕候

應じ

御好

小賣

卸

勉強

硝子器一切

函館大町六

合名社 佐野販賣部



和洋小間物各種

函館末廣町九十四番地

卸商 丸加藤商店

(電話四三六番)



はくすく  
東都  
流行  
種  
金類  
雨傘  
加藤久太郎  
大野三郎  
五

金銀貨  
両換業

久

各國時計卸賣商

產地  
直輸入

- 時計附屬品種々
- 眼鏡類種々
- 時計修繕

函館港末廣町七十九番地

加藤久太郎商店

(電話六百六十三番)



はくさく  
東都  
流行  
種  
各種  
雨傘類  
熱皮衣類  
外附品類  
加藤久太郎商店  
函館市大町三丁目五番地  
函館市大町三丁目五番地

金銀貨  
両換業

久

各國時計卸賣商

產地

直輸入

- 時計附屬品種々
- 眼鏡類種々
- 時計修繕

函館港末廣町七十九番地

加藤久太郎商店

(電話六百六十三番)



呉服店  
 植口市右衛門  
 知小賣  
 函館区京廣所十字街(電話四十七番)  
 呉服太物

最新式精品

銃砲藥大類販賣

獵具附屬品

土用火藥ナイマイ多量準備特引割

函館會所三拾五番地

葛谷銃砲藥店

(電話番號一〇四番)



● 卸小賣

● 呉服太物

植口市右衛門

# 三井 呉服店

函館區本廣町十字街(電話四十七番)

最新式精品

銃砲藥火類大販賣

獵具附屬品

土工火藥ナイマイト多量準備特=割引

函館區會所三拾五番地

鳥谷銃砲火藥店

(電話番一〇四)



日本郵船會社  
船客切符取扱

# 全林旅館

函館仲濱町拾壹番地

（電話三九番）  
（電信零語ハヤシ）

# 温泉旅館

# 湯の川 林長館

一本館の温泉湯乃以客室清潔  
庭前雅趣ある保養に適  
一本館の御客人の對親切町  
呼よ取扱  
料理精良を旨し廉價満進致す



弊店ハ當國館ニ於テ麵麩及ヒ西洋菓子製造ノ鼻祖タルノ榮譽ヲ以テ其名内外ニ高ク各地ノ博覽會ニ於テ名譽アル賞典ヲ辱ウシ販賣ノ額モ隨テ増加シ益隆盛ノ運ニ進ミタリ因テ今回製法ヲ改良シ且其信用ヲ堅クスル爲メ農商務省ノ認可ヲ

洋式菓子

麵麩菓子

類製造

専門御商

東洋堂

岡部榮吉

電話二百七十三番

得テ商標ヲ貼用スルフトセリ第三回内國勸業博覽會ニ於テ有功賞ヲ賜リ尙又第四回京都大博覽會ノ數種ノ菓子ヲ出品セシニ有功賞牌ヲ拜受セリ製品ノ佳良益々明ナリ何卒舊ニ倍シ御高評アラン

百一十四

函館日日新聞は創刊以來八年の星霜を經過し看客の愛顧より因て漸次隆盛に赴き深く其厚意を鳴謝する所なり爾來本社は其厚意に背かざらんことを期し着々刷新を加へて紙面の光彩を發揚するを勉め今や漸く其効顯を見るに至らんとす殊に近來に至て一層精勵を致し議論は侃諤公正を旨とし記事は詳細精密を主として其主義本領を明かにし又小説講談等は寓意豊富にして興味津津たるものを選択し電報は特に多額の金圓を費やして斬新珍奇の事項を速報し其他商況雜事百般の報道は精密と迅速とを期し凡そ新聞紙の職責と体面とに於て毫末も欠如する所無し江湖の諸君試みに購讀せらるゝあらば此の廣告の誇大にあらざるを知るに足らん

●本紙定價壹ヶ月金三拾五錢地方外に郵稅拾錢

函館日日新聞社

四十五



謹告

◎諸國銘茶茶器各種 ◎薰物線香各種

元祖 北芳露

銘北 北芳露 一名こんぶちや

本品ハ最高尚ナル北海産物ニシテ永  
久保存ニ堪ヘ且優美ナル裝飾ヲ施シ  
セルヲ以テ進物等ニ頗ル適當ナリ

右列記ノ各品ハ弊舗ノ製造ニ係ルモノニシテ原料ノ品質等最稀品ヲ撰ミ製法ニ  
改良ヲ加ヘ精製ナルヲ以テ他ニ比類ナキヲ証スルニ足レリ實ニ創業以來二十有  
余年ノ功果空シカラズシテ今日ノ聲譽ヲ博スルニ至レリ北芳露ノ如キハ風味淡  
薄且滋養分ニ富ミ茶菓ノ兼用ヲ全カラシム濼用シタル売ト雖モ煮テ食料ニ需ツ  
頗ル佳味アリ今般一層販路擴張ヲ斗ラン爲メ特別勉勵ヲ施シ販賣仕候間卸小賣  
共倍舊陸續御用向仰被附度奉希望候謹白

函館末廣町

製造發賣元 小西清吉

電話番號四百六十三番

◎營業品御案内

- 一内外煙草
- 一砂糖類
- 一蠟燭
- 一各國諸紙
- 一白玉粉
- 一素麵
- 一大坂清酒
- 一白絞油
- 一燐寸

右誠實を旨として産地時々の成行相場に従る精々勉強可仕  
候間多少に不限御用向被仰付度偏に奉懇願候 敬具

函館末廣町

◎卸商



仲村金右衛門

電話一六九  
電信零號イ



謹告

◎諸國銘茶茶器各種◎薰物線香各種

元祖 銘産 北海 北芳露

一名こんぶちや

本品ハ最高尚ナル北海産物ニシテ永  
久保存ニ堪ヘ且優美ナル裝飾ヲ施シ  
セルヲ以テ進物等ニ頗ル適當ナリ

右列記ノ各品ハ弊舗ノ製造ニ係ルモノニシテ原料ノ品質等最稀品ヲ撰ミ製法ニ  
改良ヲ加ヘ精製ナルヲ以テ他ニ比類ナキヲ証スルニ足レリ實ニ創業以來二十有  
余年ノ功果空シカラズシテ今日ノ聲譽ヲ博スルニ至レリ北芳露ノ如キハ風味淡  
薄且滋養分ニ富ミ茶菓ノ兼用ヲ全カラシム濂用シタル売ト雖モ煮テ食料ニ需ツ  
頗ル佳味アリ今般一層販路擴張ヲ斗ラン爲メ特別勉勵ヲ施シ販賣仕候間御小賣  
共倍舊陸續御用向仰被附度奉希望候謹白

函館末廣町

製造發賣元 金 小西清吉

電話番號四百六十三番

◎營業品御案内

- 一内外煙草
- 一砂糖類
- 一蠟燭
- 一各國諸紙
- 一白玉粉
- 一素麵
- 一大坂清酒
- 一白絞油
- 一燐寸

右誠實を旨として産地時々の成行相場に従る精々勉強可仕  
候間多少に不限御用向被仰付度偏に奉懇願候 敬具

函館末廣町

◎卸商



仲村金右衛門

電話一六九  
電信零號一



日慣の茶料  
 孔幌の山形屋  
 文明の旅館  
 山形屋

四十二

強 巴香堂 内山茂 八 賣

標 商

井

家 本

勉

食用 工用 諸油  
 線香 薰香 各種  
 巴衛 乃花 香水  
 精製 巴香 御油  
 巴衛 乃花 香油  
 花蠟 朱蠟 燭類  
 化粧 品 各種  
 香水 香油 類

所 油 羅 伽 御

函館末廣町龜田屋小路 販

四十二



日慣の茶料  
 礼幌の山形屋  
 文明の的の旅館  
 廢  
 した

四十二

勉 函館末廣町龜田屋小路 販  
 本 家 井 商 標  
 化粧品 各種  
 香水 各種  
 花蠟 朱蠟 燭類  
 巴けの 乃花<sup>こやし</sup> 香油  
 精製 巴香御油  
 芳香  
 巴衛<sup>ひつえ</sup> 乃花<sup>え</sup> 香水  
 線香 薰香 各種  
 匂水 各種  
 食用 工用 諸油  
 強 巴香堂 内山茂 八賣

所 油 羅 伽 御

四十二



Equipe Goods Store  
Notice!  
Largest Stock  
Lowest Price.

# 東洋雜貨商

英國 ロンドン アングロ、スミス

コンデンスド、ミルク、コムパニー製

搾乳婦商標ミルク

特約大販賣

函館區末廣町

## 森三浦安太郎

電話三五七

五十一

# 旅館

## 本

日本郵船株式會社船客取扱所

函館港東濱町

### 宗澤茂七

電話番號(一四六)

電信番號(キト)

五十



# 和洋小間物商

函館區地藏町角  
**伊月商店**  
 電話四十九番  
 函館區末廣町世五番地  
**伊月支店**  
 (架設中)

最新形節向  
 流行帽子  
 各種類

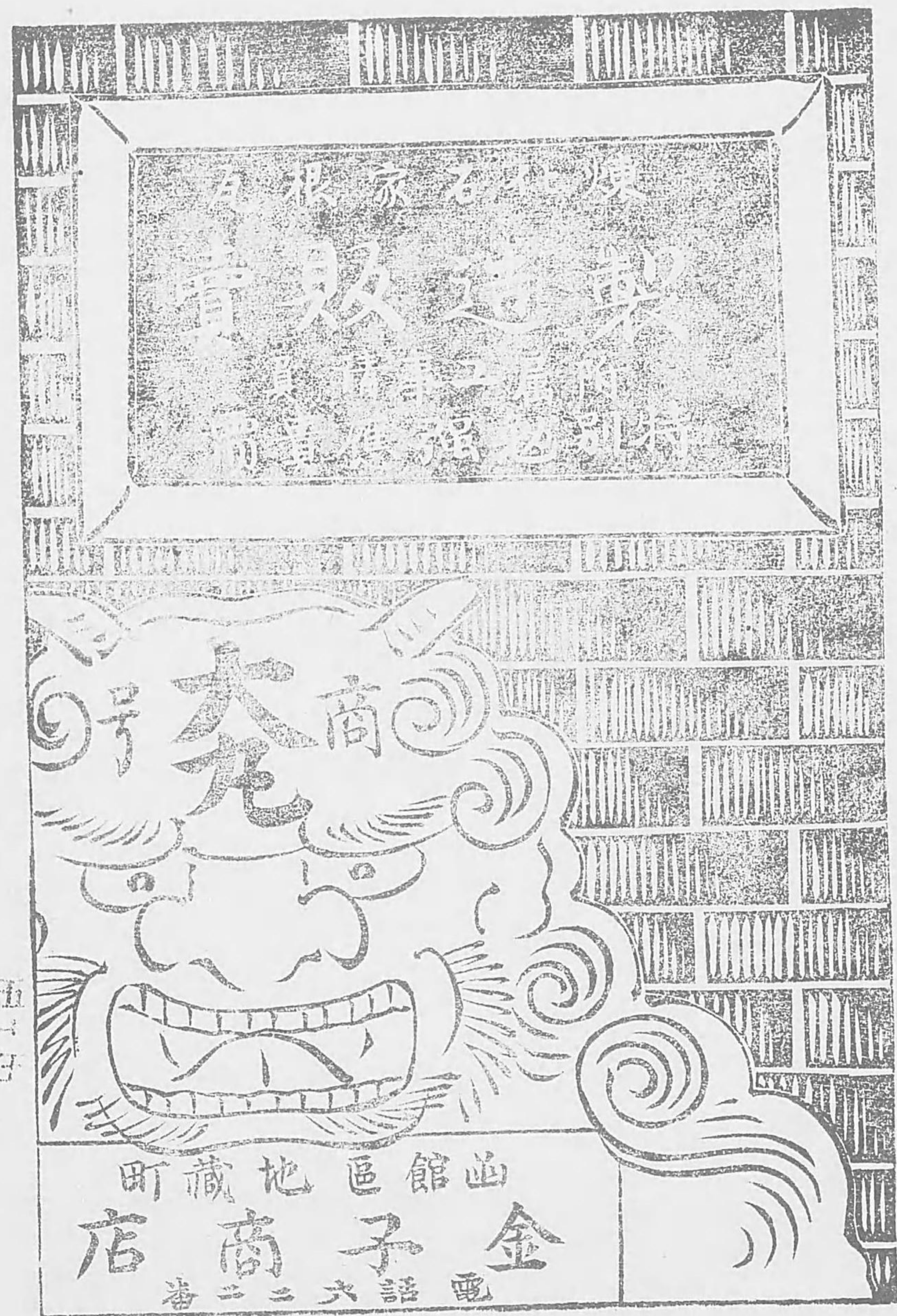
⊕

和洋小間物  
子儿仕立物類卸

函館區地藏町  
**本下本店**  
 電話四壹貳  
 旭川二條通七丁目  
**本下支店**







五二子

増訂  
三版

北海道地形圖

實價金壹圓二十錢  
郵税金 八 錢

五十四

該圖は北海道真景五拾萬分之一なる當道廳實則製にして其の精細と確實なることは固より言ふを待たせ尙ほ印刷の鮮明なる弊堂の誇稱する所なり殊に鐵道の既設線第一、第二期の豫定線函樽鐵道の變更殖民區製割の増訂戸長役場郵便電信局及驛設鑛業上之要點等細大洩なく道廳に於て増補訂正を加へ今年第三版として大に發賣致候へば苟も北海道に於て爲す有らんとする志士に於ては是非共該圖を繕きて劃策あらんことは是れ當道廳の本旨にして弊店の希望する所なり

和漢洋書  
各學校教科用書參考品  
學校用文具一切卸小賣店

札幌區南一條西三丁目八番地

小鹽自治堂

(電話二百十九番)

電信器語(コシホ)



煉石家根百  
製遺販賣  
負責事工廣附  
需資展強地別折

商丸  
函館地区蔵  
金子商店  
電話二二六番

五十一

增訂  
三版

北海道地形圖

五十四

實價金壹圓二十錢  
郵税金 八 錢

該圖は北海道真景五拾萬分之一なる當道廳實則製にして其の精細と確實なることは固より言ふを待たせ尙ほ印刷の鮮明なる弊堂の誇稱する所なり殊に鐵道の既設線第一、第二期の豫定線函樽鐵道の變更殖民區製割の増訂戸長役場郵便電信局及驛設鑛業上之要點等細大洩なく道廳に於て増補訂正を加へ今年第三版として大に發賣致候へば苟も北海道に於て爲す有らんとする志士に於ては是非共該圖を繕きて劃策あらんことは是れ當道廳の本旨にして弊店の希望する所なり

和漢洋書籍  
各學校教科用書參考品  
學校用文具一切卸小賣店

札幌區南一條西三丁目八番地

小鹽自治堂

(電話二百十九番)  
電信零語(コシホ)



醬油



三六氏公司

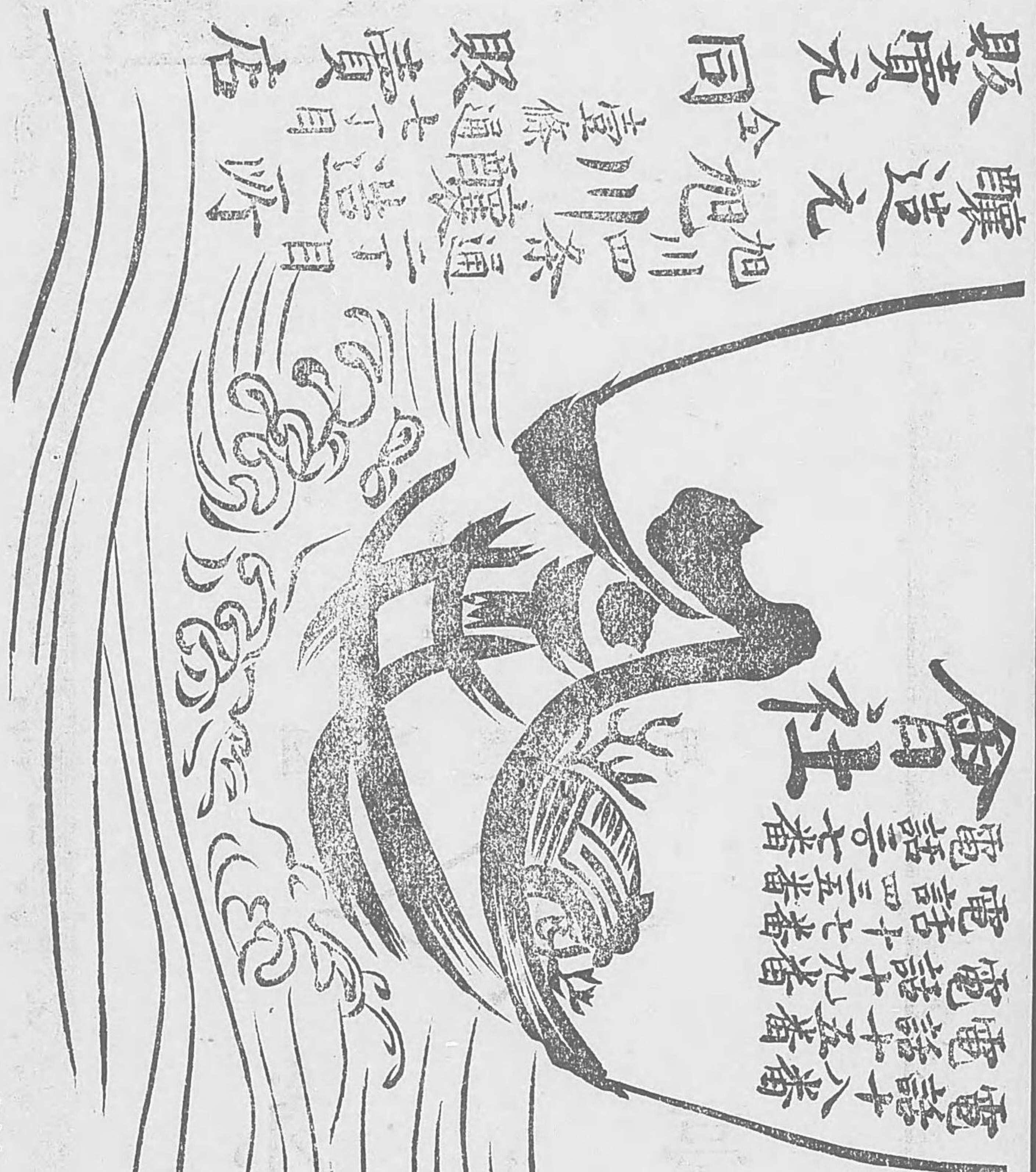


札幌 幌屋 洋物店  
 小樽 樽支店  
 旭川 旭川支店  
 室蘭 支店  
 東京 仕入店  
 大阪 仕入店

營業品

- 洋服太物
- 洋小間物

西洋織物  
 洋服地裁縫  
 其他雜貨



井合名會社

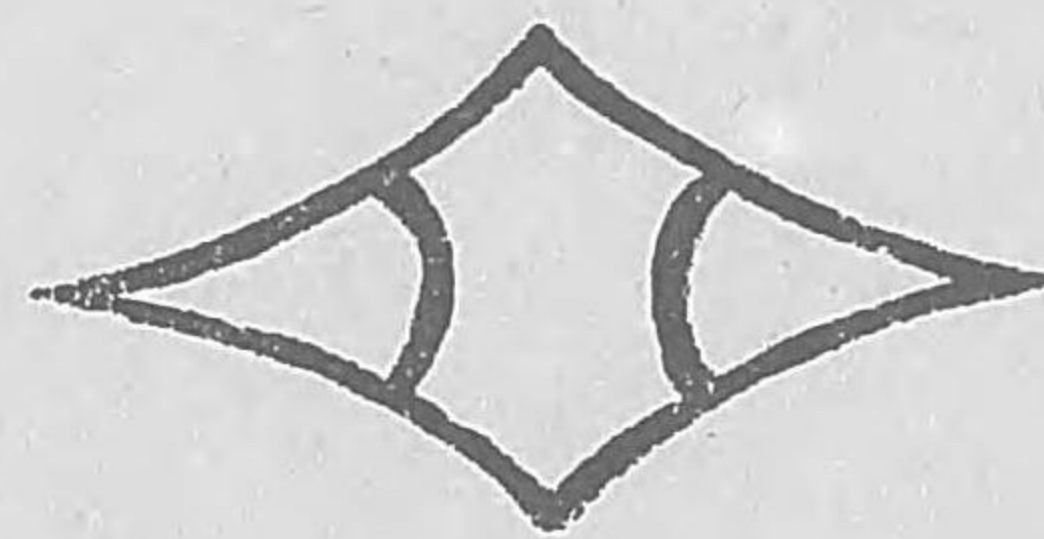
電話十八番  
 電話十五番  
 電話十九番  
 電話十七番  
 電話四三五番  
 電話三六番

製造元 旭川 釀造所  
 旭川 四條通二丁目  
 販賣元 同 壹條通七丁目  
 販賣店



# 御料理

町菜蓬館函



## 小 林 亭

(番十六百二話電)

五十八

### ◎販賣種目

- 和漢洋藥品
- 化學及工業藥品
- 醫療諸器械
- 外科消毒用材料
- 寫真藥及附屬品
- 實布埤利亞血清
- 全國高名賣藥
- 香具及化粧品
- 繪具染料各種
- 印度藍及媒染劑
- 金銀箔鈔類
- 其外本業ニ屬スル品々

函館大町卅五番地

〔醫家處方調劑所〕

藥劑師

# 杏

## 壽全堂

## 常野壽次郎

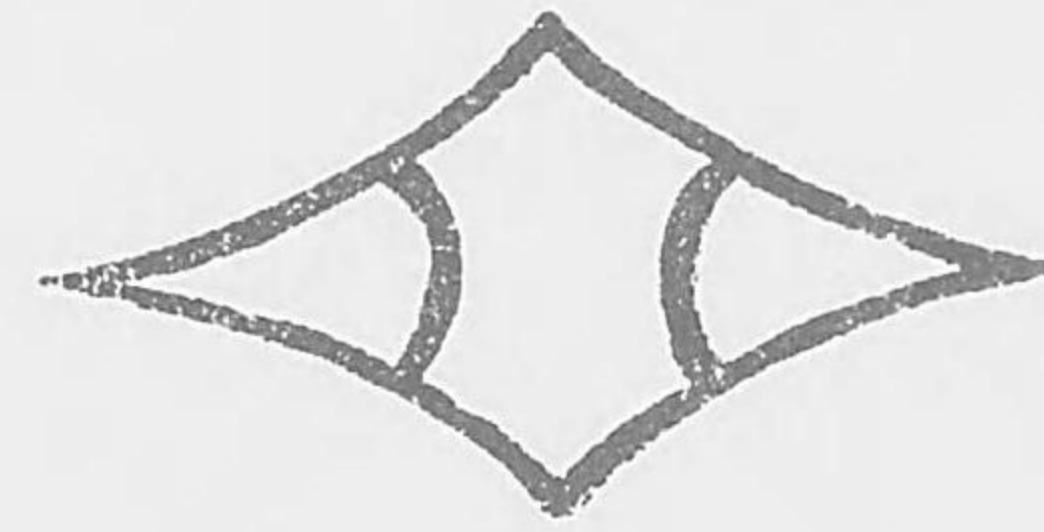
電話二十五番 (屋號タイ)

五十九



# 御料理

函館蓬萊町



## 小林亭

(電話二六六番)

五十八

### ◎販賣種目

- 和漢洋藥品
- 化學及工業藥品
- 醫療諸器械
- 外科消毒用材料
- 寫真藥及附屬品
- 實布埵利亞血清
- 全國高名賣藥
- 香具及化粧品
- 繪具染料各種
- 印度藍及媒染劑
- 金銀箔鈔類
- 其外本業ニ属スル品々

函館大町卅五番地

醫家處方  
調劑所

藥劑師



### 壽全堂 常野壽次郎

電話二十五番 (番號タ)

五十九



内案民殖道海北 録附

附 録

●北海道殖民案内

北海道殖民の沿革を按ずるに開拓使の頃は移民 食料を給し家作料 農具を與へ官船を以て無賃渡航せしむる等大に保護の道を盡せしが 移民は保護の期満ると共に離散するもの少なからず、然れども確實 なる三四の団体及堅忍なる少數の單獨移民が辛苦經營せし効果は漸 く顯はれて本道の農業に適することを確かめ開拓使の末期より稍團 体民等の進むで移住するものあるに至れり、三縣分治の時は従前の 恩典概ね廢止すといへども尙は無賃渡航の便を與へ家作料農具等を 補給せり北海道廳に至り己に直接保護して移住せしむるの時にあら ざるを知り従前の保護法を廢し専ら陸海運輸交通の便を開き或は殖 民地を撰定し又原野を區劃し濕地には排水を施し其他興産開物の方



銘茶製造  
卸小賣

函館大町七番地  
常野與兵衛

(電話二十九番)

銘茶卸小賣

全惠比須町五十九番地  
常野與兵衛支店

(電話三十一番)

度量衡販賣  
測量器械

函館仲濱町廿五番地  
度量衡販賣三器修覆所  
常野度量衡店

(電話二十九番)

京都本町四丁目  
常野出張店

(電話三十五番)



内案民殖道海北 録附

北海道殖民の沿革を按ずるに開拓使の頃は移民 食料を給し家作料 農具を與へ官船を以て無賃渡航せしむる等大に保護の道を盡せしが 移民は保護の期満ると共に離散するもの少なからず、然れども確實 なる三四の団体及堅忍なる少數の單獨移民が辛苦經營せし効果は漸 く顯はれて本道の農業に適することを確かめ開拓使の末期より稍團 体民等の進むで移住するものあるに至れり、三縣分治の時は従前の 恩典概ね廢止すといへども尙は無賃渡航の便を與へ家作料農具等を 補給せり北海道廳に至り已に直接保護して移住せしむるの時にあら ざるを知り従前の保護法を廢し専ら陸海運輸交通の便を開き或は殖 民地を撰定し又原野を區劃し濕地には排水を施し其他興産開物の方

附 録

●北海道殖民案内



銘茶製造 卸小賣

銘茶卸小賣

度量衡販賣

測量器械

函館大町七番地

常野與兵衛

(電話二十九番)

全惠比須町五十九番地

常野與兵衛支店

(電話三十一番)

京都本町四丁目

常野出張店

(電話三十五番)

函館仲濱町廿五番地

度量衡販賣三器修覆所

常野度量衡店

(電話二十九番)



法を調査し之れを世に報告し以て移住に便せり

本道の地積六千余方里其利源豊かなることは何人も知る處なり唯温  
度低きがため同一地積に於ける収利に比較して多少薄き嫌なきにあ  
らざれば其戸口は府縣と同一の割合なるを望む能はず而して本道に  
容るべき適當の人口は人々の計算により一様ならずといへども少く  
も五百万人以上一千万人の間にあらざるべからず、近年一ヶ年の移  
住人員は五六万人にして總員未だ百万人に過ぎず又以前途の遼遠  
なるを知るべきなり、翻て府縣を見れば戸口日に増殖し將さに居る  
べき餘地なきに困せんとす、されば府縣過剩の民は人口稀少なる本  
道に移住して地を拓き産を興すは實に一身一家の利益なるのみなら  
ず實に國家の利益とこそ云ふべけれ  
本道は農業に適する未開原野多し、本道は新に興すべき事業多し、  
本道は大抵の業務に於て府縣よりも比較的利益多し然れども本道の

事情を知らず目的方法を定めず漫然空望を抱きて渡來するに於ては  
實に其目的を達する能わざるのみならず徒らに不案内の地に彷徨し  
遂には所持の金品をも消費し盡くし甚しき困難に陥ることなしとせ  
ず、故に移住せんと欲するものは先づ能く目的方法を定め既に移住  
したる後は耐忍勉勵して其業に従事するを要す、尙ほ移住につき注  
意すべき事項の大畧を左に述べん

●團結移住

未開の原野に入り開墾をなさんとするものは成るべく團結移住をな  
すを可とす、何となれば其業容易ならざるを以て多數の人一致和合  
し緩急相救ふの必要あればなり、其他團結の利益は一々擧ぐるに違  
あらず殊に府縣知事の證明を得て出願せば貸付地の豫定存置を得る  
の便宜あり、其移住をなすに當りては先づ總代人を派し豫め土地を  
撰定し許可を受け十分の準備をなして出發すべし



● 単 獨 移 住

既に開けたる土地又は其近傍にして地積大ならざる處に移住せんとするものは必ずしも團結をなすを要せず能く目的方法を定めて出發すべし信用すべき先移住の知り人をたよりて來るは最も安全なり、又開墾を目的とするものは府縣知事の證明を受くることを忘るべからず、此證明を有するときは他の出願者に先ち土地の貸付を得る便あり

開墾の目的を以て團結移住をなさんとする者は明治三十年拓殖務省令第三號北海道移住民規則により規約を締結し(一)事業の目的(開墾牧畜植樹等)(二)貸付出願地積(三)移住の戸口(四)從來の職業(五)總代人を設けたるときは其氏名(五)移住後に於ける隣保救護の方法を設けたるときは其方法(七)移住旅費家屋農具衣食等の準備並に支出の方法(八)小作の方法による場合は前各項の外小作契約を掲記し府

縣知事に差出し證明を受くべし

單獨移住者にして土地の貸付を受けんと欲するものも亦事業の目的、希望地の所在地並に地積、本人又は家族移住の有無、從來の職業、資産、組合ならば組合契約小作法ならば小作人保護の要領等を記し府縣知事に出願して證明を受くるを利ありとす、但し證明を受けたる後六ヶ月以内に本廳に何等の申出をなさざるときは其證明の効力を失ふに付き其場合は更らに出願して證明を受くるを要す

● 移 民 募 集 者

一種の移住募集者あり種々の甘言を以て誘導し旅費の一部を騙取し或は到着後人夫となし、又は他の小作人となし其間に於て私利を博せんとするものなきにあらず、注意すべし  
北海道移住民規則によれば本廳下附の土地貸下指令書若くは本廳長官又は本道支廳長の證明を有する本人又は代人にあらざれば府縣に



百四十四  
於て小作人を募集し又は小作人を移住せしむるを得ず、之れに背くものは科料に處せらるゝなり

●移住の季節

小資本の農民にして新區劃地の貸付を得んと欲するものは其願書受理期日の前に渡航して土地の撰定をなすの必要あり、其他貸付地の定りたるもの又は小作者の如きは通常四月前後に移住するを宜しとす、是れ其頃は雪融けの際にて開墾にかゝるに便なるが故なり、然れども本道の農業に慣れざるものは動もすれば開墾に拙きがため豫期の作付をなす能はざるの恐あり、又冬季に移住せば伐木等に便なれども氣候に慣れざるもの、難しとする所なりされば資力の裕かなる者は九月下旬より十月末までに移住して翌春開墾の準備をなすを得策とす、又團結移住者に在りては秋季數名の壯者を先發せしめ小屋掛其他の準備をなし翌春に至りて移住するを安全なりとす

●旅行の準備

移住者は充分の旅装をなすを要す、從來春季早々渡來するもの、内には旅装完からずして跣足氷雪を踏むで上陸するものあり、是れ畢竟移住者の多くは本道の風土を詳にせず且小作人の如きは概ね資力乏しくして旅装を整ふるの余裕なきによるべしといへども抑も亦移住先者又は小作人募集者等の注意周到ならざるに起因するもの少からざるが如し、而して最も憐れむべきは老幼に對する手當不行届なるがため折角決心して移住の途に上らしめたるものをして早く己に飯國の念を發せしむること是なり、故に移民募集者は勿論一般の移民は旅装に注意し殊に老幼に對して其手當を怠るべからず、衣類夜具は勿論家具農具の類といへども破損し易きもの又は荷嵩の大ならざるものは成るべく携帯するを利なりとす

●移住費



移住後の経費は其目的によりて一様ならず、通常區劃地一戸分即五町歩を開墾せんとする農民にありては其移住地の便否家族の多少により五十圓乃至二百圓を要せり、通例一戸四口に對し衣服夜具の類を携帶するものとして小屋掛費十四圓弱家具費九圓余農具費二十六圓弱食料八十七圓余合計百三十六圓余を要し其内家具農具の如きは多少携帶するによりて其費を減すべく又小屋掛費も自己の勞力によりて多少減ずるを得べし

● 汽 車 汽 船 賃 の 割 引

旅費は里程の遠近によりて大に異なれば汽車汽船賃表并に其割引及本道里程等につき各自算出すべし、汽車汽船賃の如きは時に増減變更せらるゝことあれば茲に省く

従前は北海道協會より交通機關の賃金割引券を發行せしも明治三十一年内務省訓令第一號により同省より下附せらるゝことゝなれり、

然れども是までの移住者には往々出發の際行李勿々に取紛れ割引券を携帶せずして其利益を受くる能はざるものあり、故に移住せんとするものは必ず其原籍地の府縣島廳又は郡區市役所に申出で割引券の下附を請ふべし、若し又主務官廳の移住證明書を有するものにして住所を有する地に於て割引券を受くること能はざるときは旅行先の官公署に之れを請求して下附を受くるを得べし

右割引券を携帶せば北海道所管の鐵道北海道炭礦會社の鐵道は無賃、逓信省所管の鐵道佐野鐵道は五割引、讚岐鐵道京都鐵道は三割引、其他の鐵道は二割引、日本郵船會社及大阪商船會社の汽船は一割五分引にて乗るを得べし、委細は割引券を請求するどき其官廳に就て聞くべし

北海道廳管内の船主も概ね移民のため二割乃至三割の乗船賃を割引し殊に本廳に於て補助航海せしむる船舶は五割を減せり、但し此割



引券は本道各支廳に於て渡し又重要なる上陸地には吏員を派遣し置きて移民に渡すを例とせり  
北海道協會に於ては移住者のため本道に於ける解賃、宿泊料、荷送賃、運搬賃の割引券を發行し各府縣郡市區役所に配布しあるが故に其下附を受けて携帶すべし

●旅行中の注意

多くの回漕店又は旅人宿の中には稀に船待其他種々の口實を設け移民を滞在せしめて宿拂の多きを負り或は船賃運送賃等を受取りて其受取證及引換證を渡さずして向拂となし移民をして到着後二重の支拂をなさしむる等の弊あり、又乗船の際荷物を別船に積込まれ困難することあり、又從來移民中には間々本道の地理に暗きため其の上陸地を過り更らに目的地に達するまで無益の費用を要することあり、注意すべし

●上陸後の注意

本道中函館、小樽、室蘭、大津、釧路、網走其他重なる上陸地には管轄支廳、警察署の官吏及北海道協會員等派出して移民に關する事を取扱ふ所ありて涼車漁船の割引券を與へ或は割引の特約ある旅人宿貨物運送店等を指定し種々の便宜を與へり、故に移民は必ず之れにつきて總べての事を問合せ安全に目的地に至るべし

●北海道協會

本道に於ける拓殖及生産事業の普及發達を圖るを以て目的とし本部を東京に支部を札幌に出張所を各支廳所在地に置けり、該會は本道各種の事業並に移住に關し無料にて質問に應じ又船賃宿泊料等の割引につき移民に便利を與ふるは前項記する所の如し  
右にて移住心得の大要を結了したれば、移住者は如何にして此未開の原野を開拓すべきか今將に入らむとする所の問題なり



一口に開墾と言へば左程困難の業にあらざるかの如く思ひ誤るものなきにあらざるといへども實際は決して然らざるなり、苟くも開墾に従事するには適當の資本と勞力とを費さざるべからず、要するに移住後其開墾地の収獲物にて生計を立つるを得るまでの準備は必ずなかるべからず、其未開の原野に入り粗野なる小屋に住居し蚊虻の襲ふ所なるを厭はざ、藁莽を刈り荆蕪を拓くは誠に困難なる次第なり、況んや石狩國以南の如き便利ある地方には最早殆ど貸付すべき肥沃の大原野なく新たに移住すべき地方は概ね十勝釧路北見天鹽の諸國にして未だ交通も不便なるに於てをや、然れども數年の後開墾の業成り悉く熟圃となるの曉に於ては其愉快なるは如何ばかりなるぞ、前途の愉快を心に期し忍耐勤勉せざるべからざるなり

●小屋の位置

原野に入れば先づ住居すべき小屋を作るを要す、其位置は出來得る

だけ高燥にして衛生に適し水害の患なく飲料水の便を近傍に風防風致林とある所を撰ぶべし、且つ成るべく開墾地を前面に見渡して常に作物に注意し傍に監守するに便なるやう心掛くべし

●小屋掛の材料及構造

普通小屋掛に供すべき樹木はヤチタモ、イヌエンジユ、アカタモ、ハンノキ等の雜木、草はカヤ、ヨシ、クマザ、等にして其材料は概ね貸付地の内に於て得べきも場所によりては他より運搬せざるべからず、小屋の構造は大抵三間に五間位の堀立にして秋季は最も材料を得るに容易なり、又二三月頃に造らんとせば草に乏しきが故に先づ柱又は割木を以て假りに屋根を葺き庭にて周邊を圍ひ以て雨風を凌ぎ四五月に至りヤチタモ、シエロ其他の樹皮を剥ぎ採りて補修し秋期に至りカヤ、ヨシの類を以て再び補修すべし、凡て道具繩索釘等必要の品を用意し自ら其勞をとらば些少の費用にて雨露を凌ぐに



足るべき小屋を作り得るあり

●開墾法

新來の移民にして樹木繁茂せる原野に入るものは如何にして開墾すべきや一時茫然として當惑の姿あるを常とす、然れども少しく慣るゝに於ては復た左程の困難を感ぜざるなり、先づ鋸及び斧にて伐木し枝條をまどめて焼き棄て熊笹又は雜草は他へ延焼せざるやう豫防をなし乾燥の時を見て焼き拂ひ或は刈りて後焼き去り鋸を以て開墾すべし、而して肥沃なる地に於ては初年はスシマキと稱し蔬菜類の外は畦に當る所のみを耕し種を下すも充分の收穫あり、若し其地草原にして樹木なければ草を刈り或は焼き拂ひ鋸を以て開墾し又は新墾プラオを以て墾するも可なり、概して開墾地は府縣の熟田熟圃の如く叮嚀に失せんよりは寧ろ粗放なるも廣く耕し播種の期を愆らざるを利とす

●開墾の勞費

土地の狀態及び開墾の精粗等により其勞費に著るしき差異ありといへども普通一反歩に於ける開墾人夫は草原四人乃至八人、樹林地は立木の大小疎密により十人乃至二十人を要すべし、又樹木若くは萩等なき草原を新墾プラオにて墾するときは其費大抵一反歩につき一圓乃至三圓にて足らん

●種子物

蔬菜の種子の如きは府縣より持ち來るも差支なしといへども穀菽類は府縣にて最も早熟のものといへども本道にては成熟不充分にして往々收穫を見ざるごとあり、故に移住の後信用すべき種物商より買入れ又は近傍の農家より譲受け種類の善良なるを撰ぶをよしとす

●播種季節及び方法

播種の期節大に府縣と同じからざるものあり、且つ其年により其地



により多少の遅速あり、要するに新移住者は往々其時機を失するがため豫期の収穫を得ずして困難する傾あるが故に能く注意して播種の期を誤らざるを務むべし、又播種の量、畦間の廣狹其他の方法に至りても多少府縣と其趣を異にするものあるが故に経験ある舊移民に聞きて適宜の法に従ふを安全とす

●新墾地に適する作物

大豆、小豆、蕎麥、粟、黍、玉蜀黍、蕁苔、馬鈴薯は最も能く新墾地に適せり移住の初年には自家の食料に供するものを耕作し以て其後の新墾地には適宜に販賣作物をも播種すべし、熟圃となりし後は種々の作物能く登熟し又其土地によりては水田を設くるも可なり

●排水

排水は大に土地を改良し収穫を増すの効あり、殊に濕潤に過ぐる憂ある地は新墾の初年といへども排水溝の設備を怠るべからず

●冬間の仕事

冬期は重もに力を伐木に用ひ、翌年開墾の準備をなすべし、又地方によりては薪となし或は炭を焼きて近傍の村落に搬出せば一家の生計を補ふに足れり

●風防林

風向は地方によりて異同あれば風防林の位置は必ずしも一定する能はざるは勿論なれども概して西北に存置し貸付地の十分の一までを程度とし樹木を亂伐せざるやう注意すべし、尙ほ天然の樹林なき所には新に栽植するを可とす

●肥料

新墾地に於ては三年乃至五年間は肥料を施さずして十分の収穫あり然れども之れに慣れて施肥を怠るときは終に地方瘠せ衰へて再び恢復すること難きが故に未だ地方の衰へざる内より施肥に注意すること



と大切なり

●家畜

鶏の如き飼育容易なるものは初より之れを飼ふべし、牛馬も適宜の時期に購求し之れを愛育して運搬に供し耕耘に用ひ、且つ肥料をとりて畑に施すは農家の要務なり

殖民地

●殖民地の撰定

拓殖の業を進むるには先づ殖民地を撰定するを要するを以て北海道廳は明治十九年以來之れが調査をなし今日までに查了せし未開原野凡そ四十億坪に達せり而かも殖民地の需要は年々増加するが故に今後も尙ほ之れを撰定するの必要あり

●殖民地の區劃

右の如く撰定したる殖民地は其儘移民に貸付したる處なきにあらざといへども多くは區劃を施設して貸付せり、是れ區劃を施せば土地の整理に都合よきのみならず移民を入るゝに甚た便なるによるなり

區劃の法は縦横に兩基線を施し基線に準じし平行線を劃し以て大中小の區劃を設けり、小劃は通常一戸分と稱し其地積五町歩、中劃は小劃六個を合せ其地積三十町歩、大劃は中劃九個を合せ其地積二百七十町歩なり

●今後主要の殖民地

従來移民は常に交通便利にして且地味の肥沃なる處を擇びて貸付を出願し、官も亦之れに應じて貸付し來りたるが故に本道中便利よき渡島、後志、石狩、膽振、日高の諸國に於ける原野中第一等地と稱すべき沃野は既に概ね貸付し終り、今日此諸國に残り居るは地味の











●未開地處分法

北海道有未開地は明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法によりて處分せられ、同年勅令第九十八號によりて無償貸付の面積を定められ同三十二年北海道廳令第十九號北海道國有未開地處分法施行細則により施行せらるゝものとす

貸付すべき地積の制限は一人に付開墾に供する土地は百五十萬坪以下、牧畜に供する土地は二百萬坪以下とし、會社又は組合に對しては特に其地積の二倍までを貸付するを得べし、貸付地の成効期限は地積の大小により三年以内乃至十年以内とし植樹又は泥炭地の開墾に限り特に二十ヶ年以内の期間を以て貸付するを得べし、而して貸付を受けたる後豫定の期限を誤らず、目的の如く成効せば検査の上無代にて其土地を附與せられ永く其者の所有となり且其土地は付與を受けたる翌年より二十ヶ年の後にあらざれば地租及び地方税を課

北海道殖民案内

せらるゝことなし、猶ほ土地貸付の期間を詳説すれば左の如し

- 五千坪未満 三年以内
- 一萬五千坪未満 五年以内
- 三萬坪未満 六年以内
- 六萬坪未満 八年以内
- 十萬坪未満 九年以内
- 十萬坪以上 十年以内

附錄 殖民地

區劃地の貸付時期は道廳に於て告示し且つ官報にも掲載するが故に之れを見て出願すべし、從來の例によれば概ね三月に於て其願書を受理せり、又普通原野は何時にも出願するを得べく尙殘區劃として一旦區劃地の貸付を終りたる後残り地を生じたる個所は隨時に出願するを得べし

土地貸付に關し府縣知事の證明を有する移住民は他の出願者に先ち



土地の貸付を得る特典あり、且つ二十戸以上團結して三年以内に移住せんとするものは其移住を完了するまで未移住者に貸付地を豫定存置し又二十萬坪以上を以て自作農をなすもの又は團結移住者若くは團結移住者と同一の配當を以て二十戸以上の小作人を移住せしめんとするものは貸付停止中の土地といへども貸付地を豫定存置するを得るなり

土地の貸付又は豫定存置の許可を得たるときは時機を誤らずして其事業に着手すべし、通常貸付許可の後一ヶ年以内に事業に着手せざるときは其貸付處分を取消さるべく、又團結移住者其他豫定存置を得たるものにして豫定の移住をなさざるるときは豫定存置の効を失ひ唯既住者のみ一戸五丁歩の標準を以て貸付せらるべし、貸付を受け事業に着手したる後、次の事情生じたるときは道廳の許可を得て其貸付地の上に有する権利を賣買讓與または債務の擔保に供するを得

べし

- 一 相續又は分家したるとき
  - 二 天災其他僻けがたき原因に基く故障あるとき
  - 三 轉居轉業又は疾病に因り當初の目的を達しがたきとき
  - 四 小作人に其小作せる貸付地の権利を移轉せんとするとき
  - 五 貸付期間内全地成効したるとき
- 移民中には往々密かに他人の貸付地を買受け後日に至り紛紜を生じ甚しき不幸を見ることあり、故に貸付地買受又は讓受けんと欲せば必ず公然の手續を履み出願して許可を受くるを要す
- 貸付地は豫定の事業の後れざる様成功すべし、道廳に於ては隨時其成否を點檢し豫定の如く成功せざるときは未成功地の全部を返還せしめ且拓殖上又は土地整理上支障ありと認むる場合には其成功地の一部若くは全部を返還せしむることあるべし、返地の場合に於て主



たる事業を成功せずして従たる道路、堤塘、建造物等のみを營造し又は成功検査後に成功したる土地といへども其土地荒廢に屬したらば認むるときは未成功地として處分し又一旦成功したる土地といへども其土地荒廢に屬したると認むるときは未成功地として處分するを例とせり

着手以前に於て全地を返還せんとするときは屈出づべし、着手後に於て返還せんとするときは本廳長官に願出づべし、此場合及び成功検査の結果返還を命せられしとき其地内に伐採したる樹木あるときは其相當代價を辨償せしむるものとす、又貸付地にして公用又は公共の利益となるべき事業に供せんとするときは本廳より之れを速還せしむることあり、此場合には其地内の建設物其他の物件は所有者の請求により評定の移轉料を辨償し又は評定價額を以て買収し且つ土地に對して費したる直接の費用又は其費用より評定價格の方多額

なるときは其價格により辨償せらるゝなり  
土地の貸付與出願のもの若くは土地の貸付を受けたるものにして地元戸長役場部内に居住せざるときは其部内の居住者に代理人に定め双方連署の上所轄支廳に屈出づべし  
次に特例として本道の人民が租税の負擔、兵營の猶豫、國有未開地の貸付、移住に關する件等に就て府縣人民に比し異なる所あれば其概要を掲ぐ

- 一 國有未開地の貸付を受け成功せば何人にてても無償不與せらるゝこと
- 二 前項の如く付與を受けたるものに限り六ヶ月以内に其登記を請ふとき及土地臺帳に登録するときは登録税を免除せらるゝこと
- 三 付與を受けたる土地は付與の翌年より二十ヶ年の後にあらざ



北海道名案所内

- 四 地租は地價百分の一たること
- 五 地方税甚だ軽く且つ農業のため移住するものは三年間は全く戸數割を免除せらるゝこと
- 六 徴兵令は渡島國函館江差福山三市街を除くの外は全道何れも始めて轉籍移住し開墾其他一定の生業に従事するものは轉籍移住の後五ヶ年に滿つる年まで徴兵を猶豫せらるゝこと
- 七 移住する際は汽車賃及汽船賃の割引其他北海道協會特約の船賃、宿泊料、貨物運送賃の割引を受くること
- 八 本道農産物未製品の運賃は本廳所管鐵道に在りては十分の五、炭礦鐵道に在りては十分の四を減ずること

第五版

大日本帝國全史 全

四六判形紙數壹千頁  
上製正價金壹圓也  
並製正價金七拾五錢也  
郵税金拾六錢

○前文科大學教授内藤耻現君○文學博士重野安釋君○文學博士井上哲次郎君核  
○文學博士南條文雄君○文學博士有賀長雄君○法學士山田喜之助君評  
○小林鐵之助著

大槻東陽先生訓解

訓日本外史 全七冊 正價七拾五錢  
菊判帙入郵税金廿四錢

西村豊先生講述

孫子吳子講義 全 菊正價廿八錢  
判郵税金六錢

大和田胤修先生標註

標註四書讀本 全 菊正價廿八錢  
判郵税金六錢

宮崎安貞編纂

貝原樂軒刪補

農業全書 全 正價卅五錢  
郵税金八錢

發行所

東京市日本橋區  
柳原河岸貳号地

三好學友館

四電訥治。四電仁適合著

德教唱歌 全 正價拾五錢  
郵税金四錢

國學院講師宮西惟助先生作歌

長野縣師範學校教授宮島慎三郎作曲  
小楠公の歌 正價四錢五厘  
郵税金二錢

東京府師範學校 金成龜次郎君作歌

吉の山 正價貳錢五厘  
郵税金貳錢

町田久先生作歌

行進唱歌 正價貳錢五厘  
郵税金貳錢

四電訥治先生著

遊戲新編 近刊



北海道名所案内

れば地租及地方税を課せられざること  
 地租は地價百分の一たること  
 地方税甚だ軽く且つ農業のため移住するものは三年間は全く戸數割を免除せらるゝこと  
 六 徴兵令は渡島國函館江差福山三市街を除くの外は全道何れも始めて轉籍移住し開墾其他一定の生業に従事するものは轉籍移住の後五ヶ年に滿つる年まで徴兵を猶豫せらるゝこと  
 七 移住する際は流車賃及流船賃の割引其他北海道協會特約の船賃、宿泊料、貨物運送賃の割引を受くること  
 八 本道農産物未製品の運賃は本廳所管鐵道に在りては十分の五炭礦鐵道に在りては十分の四を減ずること

○前文科大學教授内藤耻叟君○文學博士重野安釋君○文學博士井上哲次郎君校  
 ○文學博士南條文雄君○文學博士有賀長雄君○法學士山田喜之助君評  
 小林鐵之助著

第五版 大日本帝國全史 全

四六判形紙數壹千頁  
 上製正價金壹圓也  
 並製正價金七拾五錢也  
 郵税金拾六錢

大槻東陽先生訓解

訓 日本外史 全七冊 正價七拾五錢  
 菊判映入郵税金廿四錢

西村豊先生講述

孫子吳子講義 全 正價廿八錢  
 菊判郵税金六錢

大和田胤修先生標註

標註四書讀本 全 正價廿八錢  
 菊判郵税金六錢

宮崎安貞編纂

貝原樂軒刪補

農業全書 全 正價卅五錢  
 郵税金八錢

發行所

東京市日本橋區  
 柳原河岸貳号地

三好學友館

四電訥治。四電仁邇合著

德教唱歌 全 正價拾五錢  
 郵税金四錢

長野縣師範學校教授宮島慎三郎作曲

小楠公の歌 正價四錢五厘  
 郵税金二錢

東京府師範學校 附屬小學校教授 金成龜次郎君作歌

吉山の 正價貳錢五厘  
 郵税金貳錢

町田久先生作歌

行進唱歌 正價貳錢五厘  
 郵税金貳錢

四電訥治先生著

遊戯新編

近刊



露光量違いの為重複撮影

# ●大盛堂發兌目錄●

長谷場純孝君遺子 望洋散士編纂

## 北海道名所案内

全壹冊四六版形頗ル美本  
口書寫真八拾ヶ所四拾枚挿入

永久不變色寫真銅版

●北海道十二景 一名蝦夷土産

東京櫻樂會長町田櫻園作

●地理教育 北海道名唱歌 附 北海道鐵道唱歌

鈴木茂行著

●新刊 北海道全圖

小宮寬制著

●實用 北海道新圖

鹿野忠平著

●函館市街全圖

鹿野忠平著

●新撰 函館港全圖

北海道地名明細圖八

●新刊 北海道便覽

鐵道線路電信燈台附

●新訂 大日本全圖

竹井駒哲編纂

●實用 日本作文

新領臺灣澎湖電信燈台光達附

●撰新 大日本全圖

●發行所

函館市地蔵町

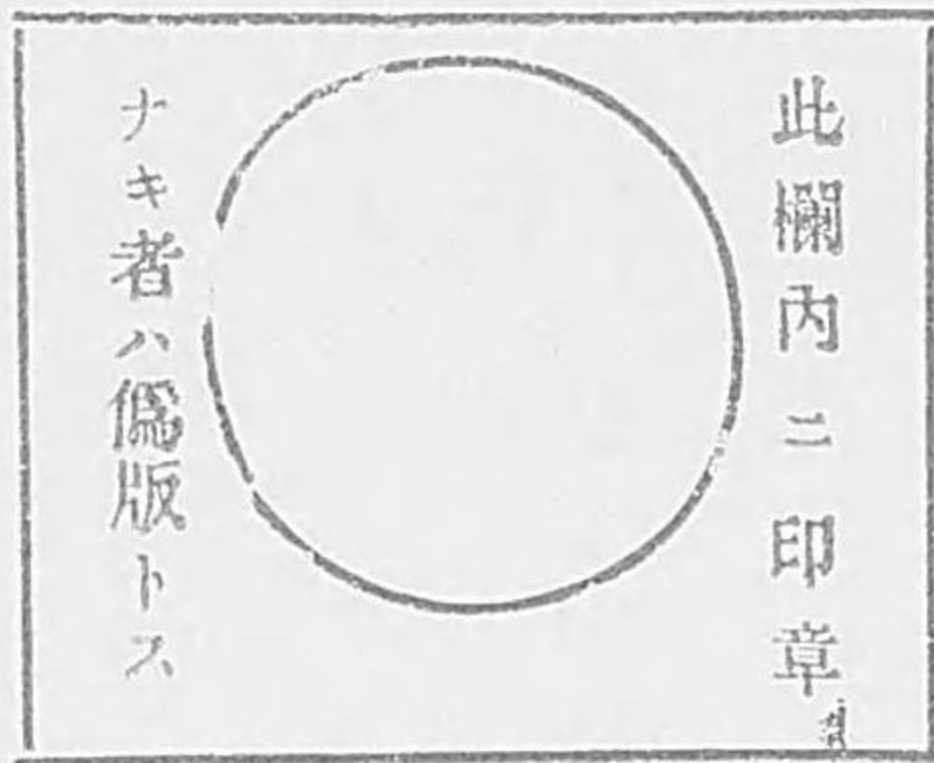
書肆

小島大盛堂

電話(架設中)

明治三十四年十二月一日印刷  
明治三十四年十二月二十日發行

不許複製



編輯兼發行者

印刷者

發行所

發賣所

東京販賣所

北海道函館地蔵町壹番地

小島千代松 滋賀縣平民

東京市京橋區木挽町一丁目十四番地

加藤忠次

北海道函館地蔵町一番地

小島大盛堂

同 函館惠比須町

近江屋支店

三好學友館

大川屋支店

目黒三松支店

松島三松支店



●大盛堂發兌目錄●

長谷場純孝君題字 望洋散士編纂

北海道名所案内

全壹冊四六版形頗々美本  
口書寫真八拾ヶ所四拾枚挿入

永久不變色寫真銅版

●北海道十二景 一名蝦夷土産

●東京櫻樂會長町田櫻園作  
地理教育 ●北海道唱歌  
附 北海道鐵道唱歌

鈴木茂行著

●新刊 鹿野忠平著

●北海道全圖

●小宮寬制著  
實用 ●北海道新圖

●北海道地名明細圖八

●函館市街全圖

●鹿野忠平著  
新撰 ●函館港全圖

●新刊 竹井駒著 編輯纂

●北海道便覽

●鐵道線路電信燈台附  
新訂 ●大日本全圖

●實用 活用地

●日本作文

●新領臺灣澎湖電信燈台光達附  
撰 ●大日本全圖

●發行所

函館地蔵町

書肆

小島大盛堂

電話(架設中)

明治三十四年十二月一日印刷  
明治三十四年十二月二十日發行

不許複製製



編輯兼發行者

印刷者

發行所

發賣所

東京販賣所

北海道函館地蔵町壹番地  
小島千代松

東京市京橋區木挽町二丁目十四番地  
滋賀縣平民

加藤忠次

北海道函館地蔵町一番地  
小島大盛堂

同 函館蕙比須町

近江屋支店

三好學友館

大川屋書店

目黒支店

松邑三松堂



30  
193

特約販賣店

室根	福山	江差	岩内	小樽	小樽	札幌	札幌	函館	函館
市川商店	山田福松	西堀書店	大盛堂	向井商店	近江堂	自治堂	富貴堂	一ニ堂	魁文舍

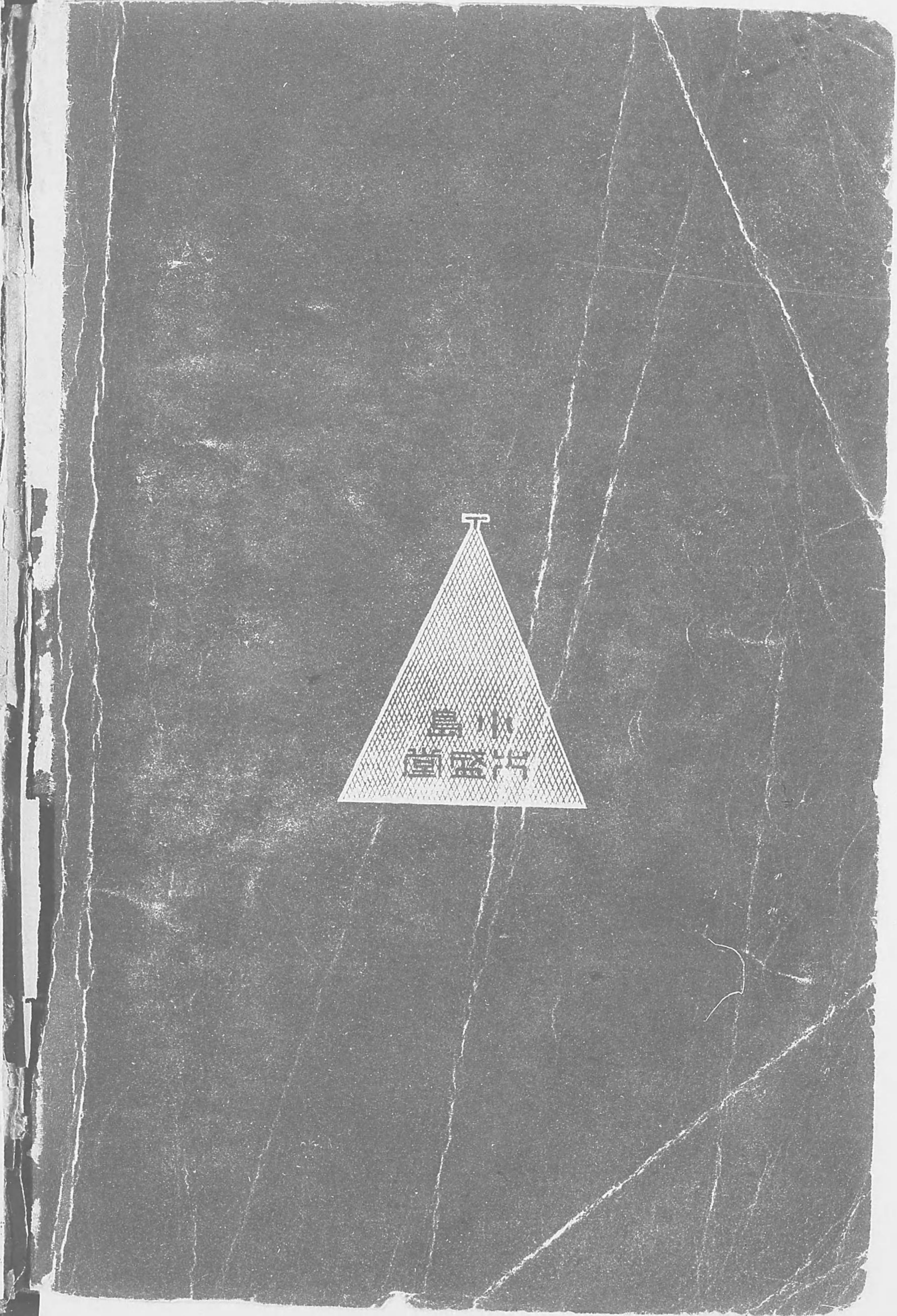
大賣捌所

蛇同紋同同室瀨岩俱神岩壽小同同札同同同同同同同同同同  
 田一龜 齒  
 森千石渡小最森中掛池池松白岩大振愛日關三浪氏福牛尾佐  
 葉澤邊南上野野川田田 島城野 神 家本島岸野  
 勝 柳 谷芳盛勉祐友榮 進新新商 月福豐 道魁  
 傳儀次商次太太強五一 商商友 商 島三彌太春  
 造次八郎店郎 郎 堂 堂 郎 郎 堂 店 店 吉 堂 軒 堂 店 店 堂 堂 郎 吉 郎 堂

大賣捌所

同青綱同浦廣帶白同釧原同同旭妹奈同岩歌同同夕追栗荒  
 森走 河尾廣糖 路岸 川牛江 澤內 張分山牧  
 又尚飯高榎加久梅鈴淺赤村三旭小森柏明木石大川石森村  
 塚階 富木 木利松 上澤 林居工 野川原上神居上  
 新文松 善藤 太安幸 書由寅長治松 吟 三  
 太武 書商 郎 五 三 書 庄 太 之 三 大 商 次 內 共 定 商  
 堂 堂 郎 一 之 茂 店 店 吉 郎 郎 店 作 院 郎 助 郎 堂 郎 店 郎 屋 堂 吉 店





島小  
圖書行



30  
193



終

